

薬事・食品衛生審議会薬事分科会
平成20年度 第2回血液事業部会議事次第

日時:平成21年3月10日(火)15:00~17:00

場所:日比谷松本楼(2階)

議題:

- 議題1 平成21年度の献血の推進に関する計画(案)について
- 議題2 平成21年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について
- 議題3 平成21年度の血液製剤の安定供給に関する計画(案)について
- 議題4 献血推進のあり方に関する検討会報告書について
- 議題5 その他の報告事項

配付資料:

議題1関連:

- 資料 1 平成21年度の献血の推進に関する計画(案)について

議題2関連:

- 資料 2 平成21年度の献血の受入れに関する計画(案)の認可について

議題3関連:

- 資料 3 平成21年度の血液製剤の安定供給に関する計画(案)について

議題4関連:

- 資料4-1 献血推進のあり方に関する検討会報告書について
- 資料4-2 採血基準見直しの検討に係るワーキンググループ報告書
- 資料4-3 採血基準に関する各種論文等
- 資料4-4 献血推進のあり方に関する検討会報告書(案)に基づく行動計画(案)

議題5関連:

- 資料5-1 輸血療法の実施に関する指針の一部改正について(平成21年2月10日運営委員会提出資料)
- 資料5-2 血液製剤の使用指針の一部改正について(平成21年2月10日運営委員会提出資料)
- 資料6-1 病原体不活化技術導入の準備について(日本赤十字社提出資料)
- 資料6-2 問診票改訂について(平成21年2月10日運営委員会 日本赤十字社提出資料)
- 資料6-3 Rh血液型の判定を誤って製造された赤血球製剤を供給した事例について(日本赤十字社提出資料)
- 資料7-1 フィブリノゲン製剤納入先医療機関の追加調査について(平成21年2月27日公表)
- 資料7-2 フィブリノゲン製剤等に関する相談窓口について(平成21年2月27日公表)
- 資料7-3 C型肝炎訴訟の和解について(平成21年3月3日公表)
- 資料7-4 田辺三菱製薬株式会社等における個人情報の開示請求への対応等について(平成21年2月26日公表)
- 資料7-5 田辺三菱製薬株式会社におけるフィブリノゲン製剤に係る418症例報告調査プロジェクトチームの活動状況等の報告について(平成21年1月27日公表)
- 資料7-6 国立病院訪問調査について(平成20年12月26日公表)
- 資料7-7 血液凝固因子製剤の納入先医療機関の調査について(平成21年2月27日公表)

- 参考資料 「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」(平成20年12月26日付け一部改正)

血液事業部会 委員名簿

氏 名	ふりがな	現 職
朝 倉 正 博	あさくら まさひろ	医療法人博栄会理事長
飯 沼 雅 朗	いいぬま まさお	社団法人日本医師会常任理事
◎ 池 田 康 夫	いけだ やすお	慶應義塾大学医学部内科教授
稲 田 英 一	いなだ えいいち	順天堂大教授
大 石 了 三	おおいし りょうぞう	国立大学法人九州大学医学部附属病院教授・薬剤部長
大 戸 斉	おおと ひとし	福島県立医大教授
大 平 勝 美	おおひら かつみ	はばたき福祉事業団理事長
岡 田 義 昭	おかだ よしあき	国立感染症研究所血液・安全性研究部第一室長
小 幡 純 子	おばた じゅんこ	上智大学大学院法学研究科教授
佐 川 公 矯	さがわ きみたか	久留米大学医学部附属病院臨床検査部教授
嶋 緑 倫	しま みどり	奈良医大准教授
高 橋 孝 喜	たかはし こうき	国立大学法人東京大学医学部附属病院輸血部教授・輸血部長
中 村 雅 美	なかむら まさみ	日本経済新聞社編集委員
花 井 十 伍	はない じゅうご	ネットワーク医療と人権理事
幕 内 雅 敏	まくうち まさとし	日本赤十字社医療センター長
三 谷 絹 子	みたに きぬこ	獨協医科大学血液内科教授・輸血部長
三 村 優 美 子	みむら ゆみこ	青山学院大学経営学部教授
宮 村 達 男	みやむら たつお	国立感染症研究所長
山 口 一 成	やまぐち かずなり	国立感染症研究所血液・安全性研究部長
山 口 照 英	やまぐち てるひで	国立医薬品食品衛生研究所生物薬品部長
吉 澤 浩 司	よしざわ ひろし	広島大学名誉教授

(計21名, 氏名五十音順)

◎部会長 ○部会長代理

薬事・食品衛生審議会
血液事業部
座席表

平成21年3月10日
日比谷松本楼 2階
午後3時から

池田部長
委員

医薬食品局長

審議官

速記

稲田委員

大石委員

大戸委員

大平委員

岡田委員

佐川委員

嶋委員

高橋委員

中村委員

血液対策課長

血液対策企画官

(日本赤十字社)

吉澤委員

山口(照)委員

事務局

三谷委員

三村委員

宮村委員

山口(一)委員

(欠席委員5名)
朝倉委員 飯沼委員
小幡委員 花井委員
幕内委員

傍聴席

平成 21 年度の献血の推進に関する計画（案）について

- ・ 諮問書 1
- ・ 平成 21 年度の献血の推進に関する計画（案） 2
- ・ 「平成 21 年度の献血の推進に関する計画
（事務局案）」に対する意見募集結果について 10

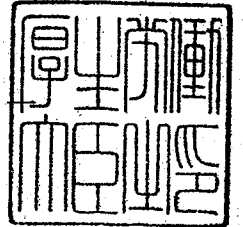
大

厚生労働省発薬食第0309038号

平成 2 1 年 3 月 9 日

薬事・食品衛生審議会会長
望 月 正 隆 殿

厚生労働大臣 舩 添 要



諮 問 書

平成21年度の献血の推進に関する計画を定めることについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第3項において準用する同法第9条第4項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

平成 2 1 年度の献血の推進に 関する計画(案)

平成 年 月 日

厚生労働省告示第 号

目次

前文	1
第1節 平成21年度に献血により確保すべき血液の目標量	1
第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項	1
1 献血に関する普及啓発活動の実施	1
① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進	
② 献血運動推進全国大会の開催等	
③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催	
④ 献血推進協議会の活用	
⑤ その他関係者による取組	
2 献血者が安心して献血できる環境の整備	4
第3節 その他献血の推進に関する重要事項	4
1 献血の推進に際し、考慮すべき事項	4
① 血液検査による健康管理サービスの充実	
② 献血者の利便性の向上	
③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進	
④ 採血基準の在り方の検討	
⑤ まれな血液型の血液の確保	
2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応	5
3 災害時等における献血の確保等	5
4 献血推進施策の進捗状況等に関する確認と評価	5

平成21年度の献血の推進に関する計画(案)

前文

- ・ 本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）第10条第1項の規定に基づき定める平成21年度の献血の推進に関する計画であり、血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針（平成20年厚生労働省告示第326号）に基づくものである。

第1節 平成21年度に献血により確保すべき血液の目標量

- ・ 平成21年度に必要と見込まれる輸血用血液製剤の量は、全血製剤0.02万リットル、赤血球製剤48万リットル、血小板製剤15万リットル、血漿^{しょう}製剤23万リットルであり、それぞれ0.02万リットル、49万リットル、16万リットル、24万リットルが製造される見込みである。
- ・ さらに、確保されるべき原料血漿^{しょう}の量の目標を勘案すると、平成21年度には、全血採血による133万リットル及び成分採血による68万リットル（血小板採血31万リットル及び血漿^{しょう}採血37万リットル）の計201万リットルの血液を献血により確保する必要がある。

第2節 前節の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

前年度までの献血の実施状況とその評価を踏まえ、平成21年度の献血推進計画における具体的な措置を以下のように定める。

1 献血に関する普及啓発活動の実施

- ・ 国は、都道府県、市町村（特別区を含む。以下同じ。）、採血事業者等の関係者の協力を得て、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の安定供給を確保し、その国内自給を推進するとともに、広く国民に対し、治療に必要な血液製剤の確保が相互扶助と博愛精神による自発的な献血によって支えられていることや、血液製剤の適正使用が求められていること等を含め、献血や血液製剤について国民に正確な情報を伝え、その理解と献血への協力を求めるため、教育及び啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、国、採血事業者等の関係者の協力を得て、より多くの住民の献血への参加を促進するため、対象となる年齢層や地域の実情に応じた啓発及び献血推進組織の育成等を行うことにより、献血への関心を高めることが必要である。
- ・ 採血事業者は、国、都道府県、市町村等の関係者の協力を得て、献血者の安全性に配慮するとともに、継続して献血に協力できる環境の整備を行うことが重要である。

このため、国、都道府県、市町村等の関係者と協力して効果的なキャンペーンを実施すること等により、献血や血液製剤に関する一層の理解と献血への協力を呼びかけることが求められる。

- ・ 国、都道府県、市町村、採血事業者及び医療関係者は、国民に対し、血液製剤がこれを必要とする患者への医療に欠くことのできない有限で貴重なものであることを含め、献血や血液製剤についての普及啓発を実施し、又はこれに協力するとともに、少子高齢化の進行による血液製剤を必要とする患者の増加や献血可能人口の減少、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の発生に伴う献血制限等の献血をめぐる環境の変化、血液製剤の利用実態等について正確な情報を伝え、献血者等の意見を踏まえつつ、これらの情報提供や普及啓発の手法等の改善に努めることが必要である。また、血液製剤の安全性の確保のための取組の一環として、感染症の検査を目的とした献血を行わないよう、献血における本人確認や問診の徹底はもとより、平素から様々な広報手段を用いて、国民に周知徹底する必要がある。

- ・ これらを踏まえ、以下に掲げる献血推進のための施策を実施する。

① 効果的な普及啓発、献血者募集等の推進

血液製剤について、国内自給が確保されることを基本としつつ、将来にわたって安定的に供給される体制を維持するため、幼少期も含めた若年層、企業や団体、複数回献血者といった普及啓発の対象を明確にした効果的な活動や重点的な献血者募集を行うこととし、これを「献血構造改革」と位置付け、以下の取組を行う。

<若年層を対象とした対策>

- ・ 国、都道府県、市町村及び採血事業者は、献血推進活動を行っている献血ボランティア組織等の協力を得るとともに、機能的な連携を図ることにより、若年層の献血や血液製剤に関する理解の促進及び献血体験の促進に組織的に取り組む。
- ・ 若年層への啓発には、若年層向けの雑誌、放送媒体、インターネット等を含む様々な広報手段を用いて、献血についての広告に国が作成した献血推進キャラクターを活用する等、効果的な取組が必要である。
- ・ 子が幼少期にある親子に対し、血液の大切さや助け合いの心について、効果的な媒体や血液センター等を活用して啓発を行う。
- ・ 国は、高校生を対象とした献血について解説した教材や中学生を対象とした血液への理解を促すポスターを作成し、都道府県、市町村及び血液事業者と協力して、これらの教材等を活用しながら、献血や血液製剤に関する理解を深めるための普及啓発を行う。
- ・ 都道府県及び市町村は、地域の実情に応じて、若年層の献血への関心を高めるため、学校等において、ボランティア活動推進の観点を踏まえつつ献血や血液製剤についての情報提供を行うとともに、献血推進活動を行う組織との有機的な連携を確保する。
- ・ 採血事業者は、その人材や施設を活用し、若年層への正しい知識の普及啓発と協力の確保を図り、その推進に当たっては、国と連携するとともに都道府県、市

町村及び献血ボランティア組織等の協力を得る。

＜企業等における献血の推進対策＞

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、献血に協賛する企業や団体を募り、その社会貢献活動の一つとして、企業等における献血の推進を促す。また、各血液センター等における献血推進活動の展開に際し、地域の実情に即した方法で企業等との連携強化を図り、企業等における献血の推進を図るための呼びかけを行う。

＜複数回献血者対策＞

- ・ 国及び採血事業者は、都道府県及び市町村の協力を得て、複数回献血者の協力が十分に得られるよう、平素から各血液センターに登録された献血者に対し、機動的かつ効率的に呼びかけを行う体制を構築する。また、献血に継続的に協力が得られている複数回献血者の組織化及びサービスの向上を図り、その増加に取り組むとともに、献血の普及啓発活動に協力が得られるよう取り組む。

＜献血推進キャンペーン等の実施＞

- ・ 国は、献血量を確保しやすくするとともに、感染症等のリスクを低減させる等の利点がある400ミリリットル全血採血及び成分採血の推進及び普及のため、都道府県及び採血事業者とともに、7月に「愛の血液助け合い運動」を、1月及び2月に「はたちの献血」キャンペーンを実施するほか、血液の供給状況に応じて献血推進キャンペーン活動を緊急的に実施する。また、様々な広報手段を用いて献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を呼びかけるとともに、献血場所を確保するため、関係者に必要な協力を求める。都道府県、市町村及び採血事業者は、これらの献血推進活動を実施することが重要である。

② 献血運動推進全国大会の開催等

- ・ 国は、都道府県及び採血事業者とともに、献血により得られた血液を原料とした血液製剤の国内自給を推進し、広く国民に献血や血液製剤に関する理解と献血への協力を求めるため、7月に献血運動推進全国大会を開催し、その広報に努める。また、国及び都道府県は、献血運動の推進に関し積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人に対し表彰を行う。

③ 献血推進運動中央連絡協議会の開催

- ・ 国は、都道府県、市町村、採血事業者、民間の献血推進組織、患者団体等の代表者の参加を得て、効果的な献血推進のための方策や献血を推進する上での課題等について協議を行うため、献血推進運動中央連絡協議会を開催する。

④ 献血推進協議会の活用

- ・ 都道府県は、献血や血液製剤に関する住民の理解と献血への協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、採血事業者、医療関係者、商工会議所、教育

機関、報道機関等から幅広く参加者を募って、献血推進協議会を設置し、定期的に開催することが求められる。市町村においても、同様の協議会を設置することが望ましい。

- ・ 都道府県及び市町村は、献血推進協議会を活用し、採血事業者及び血液事業に関わる民間組織等と連携して、都道府県献血推進計画の策定のほか、献血や血液製剤に関する教育及び啓発を検討するとともに、民間の献血推進組織の育成等を行うことが望ましい。

⑤ その他関係者による取組

- ・ 官公庁、企業、医療関係団体等は、その構成員に対し、ボランティア活動である献血に対し積極的に協力を呼びかけるとともに、献血のための休暇取得を容易にするよう配慮するなど、進んで献血しやすい環境作りを推進することが望ましい。

2 献血者が安心して献血できる環境の整備

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに当たっては献血者を懇切丁寧に処遇し、不快の念を与えないよう特に留意するとともに、献血者の要望を把握し、献血受入体制の改善に努める。また、献血者の個人情報保護するとともに、国の適切な関与の下で献血による健康被害に対する補償のための措置を実施する等献血者が安心して献血できる環境整備を行う。

国及び都道府県は、採血事業者によるこれらの取組を支援することが重要である。

第3節 その他献血の推進に関する重要事項

1 献血の推進に際し、考慮すべき事項

① 血液検査による健康管理サービスの充実

- ・ 採血事業者は、献血制度の健全な発展を図るため、採血に際し、献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認して、その結果を通知する。また、低比重により献血ができなかった献血申込者に対して栄養士による健康相談を実施し、献血者の増加を図る。
- ・ 国は、採血事業者によるこれらの取組を支援する。また、献血者の健康管理に資する検査の充実は、献血の推進に有効であることから、本人の同意の上、検査結果を健康診査、人間ドック、職域検査等で活用するとともに、地域における保健指導にも用いることができるよう、周知又は必要な指導を行う。都道府県及び市町村は、これらの取組に協力する。

② 献血者の利便性の向上

- ・ 採血事業者は、安全性に配慮しつつ、効率的に採血を行うため、立地条件等を考慮した採血所の設置、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血等、献血者の利便性及び安全で安心な献血に配慮した献血受入体制の整備及び充実を図る。

- ・ 都道府県及び市町村は、採血事業者と十分協議して、移動採血車による採血等の日程を設定し、そのための公共施設の提供等、採血事業者の献血の受入れに協力することが重要である。

③ 血液製剤の安全性を向上するための対策の推進

- ・ 国は、「輸血医療の安全性確保のための総合対策」に基づき、採血事業者と連携して、献血者に対する健康管理サービスの充実等による健康な献血者の確保、献血者の本人確認の徹底等の検査目的の献血の防止のための措置を講ずるなど、善意の献血者の協力を得て、血液製剤の安全性を向上するための対策を推進する。

④ 採血基準の在り方の検討

- ・ 国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血の推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しを行う。

⑤ まれな血液型の血液の確保

- ・ 採血事業者は、まれな血液型を持つ患者に対する血液製剤の供給を確保するため、まれな血液型を持つ者に対し、その意向を踏まえ、登録を依頼する。
- ・ 国は、まれな血液型の血液の供給状況について調査する。

2 血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の的確な対応

- ・ 国、都道府県及び採血事業者は、赤血球製剤等の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、その供給に支障を及ぼす危険性を勘案し、国及び採血事業者が策定した対応マニュアルに基づき、早急に所要の対策を講ずることが重要である。

3 災害時等における献血の確保等

- ・ 国、都道府県及び市町村は、災害時等において献血が確保されるよう、採血事業者と連携して必要とされる献血量を把握した上で、様々な広報手段を用いて、需要に見合った広域的な献血の確保を行うとともに、製造販売業者等関係者と連携し、献血により得られた血液が円滑に現場に供給されるよう措置を講ずることが必要である。また、採血事業者は、災害時における献血受入体制を構築し、広域的な需給調整等の手順を定め、国、都道府県及び市町村と連携して対応できるよう備えることにより、災害時における献血の受入れに協力する。

4 献血推進施策の進捗^{ちよく}状況等に関する確認と評価

- ・ 国、都道府県及び市町村は、献血推進のための施策の短期的又は長期的な効果及び進捗^{ちよく}状況、採血事業者による献血の受入れの実績を確認し、その評価を次年度の献血推進計画等の作成に当たり参考とする。また、必要に応じ、献血推進のための施策を見直すことが必要である。
- ・ 国は、献血推進運動中央連絡協議会等の機会を活用し、献血の推進及び受入れに関

し関係者の協力を求める必要性について民間の献血推進組織等とも認識を共有し、必要な措置を講ずる。

- ・ 採血事業者は、献血の受入れに関する実績や体制等の評価を行い、献血の推進に活用する。

「平成21年度の献血の推進に関する計画（事務局案）」に対する
意見募集結果について

平成21年3月
厚生労働省医薬食品局
血液対策課

「平成21年度の献血の推進に関する計画（事務局案）」について、平成21年1月30日から平成21年2月28日まで御意見を募集したところ、17の団体・個人から御意見等をお寄せいただきました。

今般、お寄せいただいた御意見等とこれらに対する当省の考え方について、別紙のとおり取りまとめたので公表します。

なお、御意見等については、便宜上、案件ごとに適宜集約させていただいています。

今回、御意見等をお寄せいただきました方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

今後とも厚生労働行政の推進にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

「平成21年度の献血の推進に関する計画（事務局案）」に対する提出意見及び回答

【御意見等1】

問診票でプライバシーを侵害するような項目は、削除すべきである。どうしても必要なら医師が面談するときに聞くべき。

【回答】

問診は、献血者の健康を守るとともに、血液を必要としている患者をウイルスなどの感染から守るために実施しており、必要不可欠なものです。

プライバシーは厳守されますので、問診票の正しい記載をお願いします。

【御意見等2】

献血への呼びかけを行うだけでなく、社会貢献活動の一つとして、献血企業名のHPでの紹介や企業の広告・製品に献血協力マークの印刷を認める等、献血企業のイメージアップを図り、献血協力へのインセンティブを高める必要があるのではないか。

【回答】

日本赤十字社では、医療に必要な血液を将来にわたって安定的に確保するために、献血に積極的に協力していただく企業・団体を「献血サポーター」としており、「献血サポーター」となった企業・団体には、「献血サポーター」ロゴマークを日常の企業活動等において活用していただくことができます。また、名前公表にご賛同いただきました企業・団体名を日本赤十字社ホームページにて公表しています。

【御意見等3】

献血を実施するにあたって、必ず献血事故の発生リスクと健康被害救済制度についての説明や、献血後の転倒事故等を防止するため、採血後の健康観察を十分に行うこと（時間設定）を規定することを求めます。

【回答】

本年2月にとりまとめられた「献血推進のあり方に関する検討会（以下、検討会）」報告書において、献血時におけるリスクとその対応策及び献血者健康被害救済制度に係る説明を十分に行うべきであること並びに献血者の安全を確保する観点から、採血前後のリスク管理を徹底するなど、献血副作用の防止策を万全にすることが提言されています。この提言を受け、今後、献血者の安全確保に係る体制の整備や、献血時に配布しているパンフレットについて献血の際のリスクとその対応策及び献血者健康被害救済制度に関する記載の充実を行うこととしています。

【御意見等4】

地域や職場における健康診査・保健指導への活用に際しては本人の意思尊重を徹底すべきと考える。

【回答】

日本赤十字社では、献血にご協力いただいた方々へのサービスとして、生化学検査等の血液検査成績を献血者本人あてにお知らせしていますが、このサービスは、通知を希望された方のみを対象としています。さらに、血液検査成績の地域や職場における健康診査・保健指導への活用に際しては、本人の同意が不可欠であることはいうまでもないと考えています。

【御意見等5】

献血血液による感染症予防のため、検査目的による献血は絶対にやめるように周知徹底して欲しい。

【回答】

感染症の検査を目的とする献血によりウィンドウ期の血液が検査をすり抜けると、献血を介して患者に感染させる恐れがあるので、絶対に行ってはいけません。

献血に関する広報に当たっては、感染症の検査目的の献血の危険性についても、ホームページやパンフレット等を用いて、引き続き周知してまいります。

【御意見等 6】

男子の400 mL 献血の採血基準を17歳に引き下げる方向が出されたが、健康面への影響が心配されるので再検討を強く求めたい。学校現場で生徒の集団を観察する養護教諭としては、10代の若年者は身体的な成長・発達が成人と同程度以上と判断されても、生活が不規則だったり、自律神経機能が不安定だったり、心配なことが多々あります。採血基準見直しは慎重に行われるべきと考えております。

【回答】

「採血基準の見直し」については、検討会のもとに、医学、法律学及び教育学等の専門家により構成された「採血基準見直しの検討に係るワーキンググループ」を設置し、「400 mL 献血の下限年齢の見直し」等、検討会での議論において掲げられた見直し案についての検討を行いました。

検討にあたっては、国内外の各種論文や採血時の献血副作用発生率に係る研究データなどさまざまなエビデンスの評価・検証を慎重に行い、これらの結果から献血者の安全が十分に確保できると学問的に判断されたものについて採血基準を見直すべきとの報告が検討会になされ、審議の結果、検討会報告書に盛り込むこととなりました。

同報告書では、「ただし、献血者の安全を確保する観点から、採血前後のリスク管理を徹底するなど、献血副作用の防止策を万全にすることが必要である。特に初回献血者は、複数回献血者と比較して献血副作用の発生率が高いとのデータも得られていることから、初回献血時のリスク管理を徹底すべきである。」との提言もなされております。

これを受けて、今後、「薬事・食品衛生審議会」において、採血基準の見直し及び献血者の安全確保に係る体制の整備などについて検討することとしています。

【御意見等 7】

高校生のからだは、体格的には大人と同等の体格であっても、発達途上です。食生活も不規則で、栄養素の偏った食事をとっています。また、深夜型の生活を送っており、慢性的な睡眠不足状態にあります。そのような生徒の実態がある中で、献血をすることは健康面から問題があります。また、高校での集団献血では、「みんなが献血するなら私も・・・」、「ボランティア活動なんだからしないといけないのでは」といった強制力が働きがちなことから、高校での集団献血には反対です。

【回答】

厚生労働省では、1991年の国際赤十字社・赤新月社決議を元に、「献血」の定義を「自発的な無償供血」とし、学校はもとより会社や献血ルーム等の採血所にあっても、決して強制があってははいけないと考えています。

また、献血体験のみならず、血液事業関係者や輸血の専門家が学校に赴き、献血の意義や仕組みをわかりやすく説明する「献血出前講座」や、体験学習等の実施、さらには、高校・中学校の教科書などで「献血」を課題として取り上げてもらうための積極的な取り組みが重要であると考えております。

平成 21 年度の献血の受入に関する計画（案）の認可について

- ・ 諮問書 1
- ・ 平成 21 年度の献血の受入に関する計画（案） 2

【参考資料】

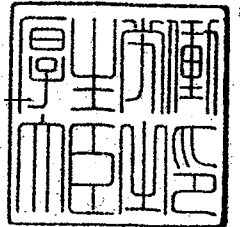
- ・ 平成 20 年度献血受入計画（平成 20 年度 4 ～ 12 月）
における取組み状況と平成 21 年度献血受入計画
の策定について 10

厚生労働省発薬食第0309039号

平成 2 1 年 3 月 9 日

薬事・食品衛生審議会会長
望 月 正 隆 殿

厚生労働大臣 舩 添 要



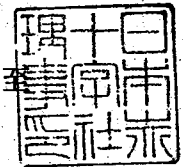
諮 問 書

平成 2 1 年度の献血の受入れに関する計画を認可することについて、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1 6 0 号）第 1 1 条第 3 項の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

血 企 第 6 6 号
平成 2 1 年 3 月 6 日

厚生労働大臣 舩添 要一 様

日本赤十字社
理 事 西 本



平成 2 1 年度献血受入計画について

標記については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(昭和 3 1 年法律第 1 6 0 号) 第 1 1 条第 1 項の規定に基づき提出いたします。

平成21年度献血受入計画について

平成21年度献血受入計画については、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」第11条及び同法律施行規則第4条に則り、各都道府県と協議し、当該年度に献血により受け入れる血液の目標量、その目標量を確保するために必要な措置に関する事項及びその他献血の受入れに関する重要事項について、以下のとおり計画します。

1. 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

平成21年度に献血により受け入れる血液の目標量については、各都道府県における過去3年の輸血用血液製剤の需要動向と原料血漿の必要量から安定供給を確保するために、全血献血で約133万リットル、血小板成分献血で約31万リットル、血漿成分献血で約37万リットルの合計約201万リットルを確保することとします。なお、都道府県別目標量については、別紙1のとおりです。

日本赤十字社では、これらの目標量を確保するために、国、地方公共団体等との連携の下に献血受入れに取り組みます。

2. 前項の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

(1) 献血受入体制

- ①平成21年度に献血により受け入れる血液の目標量を確保するための各都道府県献血受入施設の稼働数及び目標量については、別紙2のとおりとし、医療機関の需要に応じた採血に努め、400mL及び成分献血を積極的に受入れることとします。
- ②献血者の安全性と利便性に配慮し、立地条件等を考慮した採血所の設置、移動採血車による計画的採血等、効率的な採血を行うための設備及び体制の整備・充実を継続的に検討します。
- ③献血者が安心して献血できるように、献血の受入れに当たっては献血者を懇切丁寧に処遇し、不快の念を与えないようにするため、職員の教育訓練の充実強化により献血者の処遇向上を図るとともに、献血時に配布する「お願い」について、適宜見直しを図り、事故防止・安全確保に努めます。また、献血者健康被害救済制度の適正な運用に努めます。
- ④生活習慣病等の疾病構造が変化する中、時代に即した検査サービスを目指し、新たに糖尿病関連検査項目であるグリコアルブミン検査を開始しました。引き続き、献血者の健康管理に資するため、希望者に対し生化学検査成績を、400mL、成分献血者には生化学検査成績に加えて血球計数検査成績をお知らせいたします。

- ⑤低比重により献血にご協力いただけなかった献血申込者に対して、健康相談等を実施し、献血者の増加を図ります。

(2) 献血者の確保対策

少子高齢社会において、献血者の確保は重要な課題です。国が推進する献血構造改革に従って、将来にわたっての需給の安定及び安全性の向上の観点から、若年層及び複数回献血者の増加、安定的な集団献血の増加を中心として確保を図ります。

そのために、国の献血推進計画と連携した基本的な受入方策と都道府県の献血推進計画と連携した地域事情に見合った受入方策により献血者の確保に努めます。

また、健康な高年齢層の献血受入れについても積極的に推進します。なお、各都道府県血液センターにおける主な取り組みは、別紙3のとおりです。

(基本的な受入方策と具体的取り組み)

- ①若年層への献血に関する普及啓発や年間を通した安定的な血液確保のため、全国キャンペーンの実施や各種広報媒体を活用し、国、都道府県及び市町村と連携して積極的な広報活動を展開します。

- ・ 全国的な統一献血キャンペーンを展開する。
 - 「愛の血液助け合い運動月間」(7月)
 - 「第4回いのちと献血俳句コンテスト」(10～2月)
 - 「全国学生クリスマス献血キャンペーン」(12月)
 - 「はたちの献血キャンペーン」(1～2月)
 - 「春の献血キャンペーン」(3～4月)
- ・ 地域の特性、実情に根ざした広報を積極的に展開する。
- ・ インターネット等、若年層向けの広報媒体を活用した情報提供及び情報収集を行う。
- ・ 国が作成した献血推進キャラクターを積極的に活用する。
- ・ 国が作成した教材やポスターを積極的に活用する。
- ・ 血液センター等の施設を活用し、若年層や子が幼少期にある親子に対して啓発活動を行う。

- ②都道府県及び市町村の協力を得ながら、献血推進団体や青少年ボランティア組織等との連携の強化を図り、献血者の確保及び将来の献血に向けた普及啓発活動を行います。

- ・ 全国学生献血推進実行委員会の活動支援等、学生献血推進活動を支援する。
- ・ 血液センターの施設見学や献血ボランティア体験の受入れを推進する。
- ・ 血液事業の説明会や献血セミナー等を実施する。

③国、都道府県及び市町村の協力を得ながら、企業等との連携を深め、献血者の確保を図ります。

- ・ 献血協賛企業ロゴマークを活用する。
- ・ 新規献血協力企業等を開拓する。
- ・ 献血ルーム及び街頭等の移動献血会場における協力企業・団体数の増加を図る。

④複数回献血者の組織化を推進するとともに、献血者に対するサービスの向上を図り、複数回献血者の増加及びその普及啓発に取り組みます。

- ・ 「複数回献血クラブ」登録者を増強し、情報提供や献血依頼を実施する。
- ・ 複数回献血者の増加を図り、継続的に献血協力が得られるよう新たなサービスを検討し、実施する。

3. その他献血の受入れに関する重要事項

(1) 血液製剤の安全性向上のための対策

国及び都道府県と連携し健康な献血者の確保に努めます。

今後も献血者本人確認を徹底するとともに、検査目的献血の防止のための「安全で責任のある献血」の普及に努めます。さらに、問診業務の充実強化に努め、安全な献血の受入れを図ります。

(2) まれな血液型の血液確保

まれな血液型の献血血液は、基幹センターにおいて在庫状況を管理し、必要に応じ医療機関へ供給します。また、まれな血液型の献血者には、その意向を踏まえて登録を依頼するとともに必要時に献血を依頼します。

(3) 血液製剤の在庫管理と不足時の対応

赤血球製剤等の在庫予測に基づき、献血者確保対策を講じて安定供給に努めます。また、国及び都道府県にも在庫情報を提供し、万一の在庫不足時には対応手順に基づき、関係機関と連携した献血者確保方策を実施します。

(4) 災害時等における危機管理

災害時における広域的な需給調整等の手順に基づき、国、都道府県及び市町村と連携して需要に見合った献血確保及び円滑な血液供給に努めます。

(5) 献血受入計画の分析と評価

献血の受入状況について、国、都道府県及び市町村へ情報を提供します。また、その分析と評価を行い、次年度の献血受入計画の各種施策の検討に資することとします。

平成21年度に献血により受け入れる血液の目標量(日本赤十字社)

(単位:L)

No	都道府県名	全 血 献 血			成 分 献 血			合 計
		200mL	400mL	計	血 小 板	血 漿	計	
1	北海道	6,620	72,360	78,980	14,072	6,165	20,237	99,217
2	青森	1,200	13,600	14,800	3,520	4,195	7,715	22,515
3	岩手	1,080	12,000	13,080	3,600	3,198	6,798	19,878
4	宮城	1,870	20,384	22,254	6,164	7,654	13,818	36,072
5	秋田	1,180	11,640	12,820	3,120	2,622	5,742	18,562
6	山形	868	9,652	10,520	1,476	3,753	5,229	15,749
7	福島	2,160	21,120	23,280	4,320	4,437	8,757	32,037
8	茨城	2,044	22,948	24,992	5,724	9,776	15,500	40,492
9	栃木	2,424	15,448	17,872	4,876	6,756	11,632	29,504
10	群馬	2,216	17,792	20,008	5,492	5,036	10,528	30,536
11	埼玉	7,738	49,132	56,870	11,796	25,540	37,336	94,206
12	千葉	6,100	50,400	56,500	12,600	19,822	32,422	88,922
13	東京	12,910	140,536	153,446	43,744	36,978	80,722	234,168
14	神奈川	960	77,440	78,400	16,220	38,165	54,385	132,785
15	新潟	1,920	20,940	22,860	5,992	6,450	12,442	35,302
16	富山	820	9,480	10,300	3,000	2,206	5,206	15,506
17	石川	1,100	12,120	13,220	3,920	2,055	5,975	19,195
18	福井	550	8,500	9,050	2,140	1,680	3,820	12,870
19	山梨	900	7,600	8,500	0	5,250	5,250	13,750
20	長野	1,400	18,400	19,800	4,400	7,914	12,314	32,114
21	岐阜	1,300	16,800	18,100	3,800	8,213	12,013	30,113
22	静岡	1,920	34,640	36,560	9,339	9,544	18,883	55,443
23	愛知	4,460	59,440	63,900	18,360	24,758	43,118	107,018
24	三重	56	14,508	14,564	4,489	6,377	10,866	25,430
25	滋賀	570	10,664	11,234	3,336	5,378	8,714	19,948
26	京都	254	28,296	28,550	6,896	7,215	14,111	42,661
27	大阪	2,598	103,420	106,018	23,136	22,348	45,484	151,502
28	兵庫	2,044	52,676	54,720	11,388	17,399	28,787	83,507
29	奈良	600	14,000	14,600	3,380	3,578	6,958	21,558
30	和歌山	652	12,684	13,336	2,693	2,475	5,168	18,504
31	鳥取	276	6,552	6,828	2,064	997	3,061	9,889
32	島根	62	6,604	6,666	2,008	1,752	3,760	10,426
33	岡山	620	21,600	22,220	5,840	4,272	10,112	32,332
34	広島	930	30,760	31,690	12,060	5,425	17,485	49,175
35	山口	534	16,784	17,318	3,096	3,250	6,346	23,664
36	徳島	74	8,216	8,290	2,276	1,616	3,892	12,182
37	香川	160	11,640	11,800	2,560	2,323	4,883	16,683
38	愛媛	84	15,972	16,056	3,192	4,030	7,222	23,278
39	高知	520	9,320	9,840	1,880	2,071	3,951	13,791
40	福岡	206	53,880	54,086	11,462	13,325	24,787	78,873
41	佐賀	72	9,000	9,072	2,064	2,808	4,872	13,944
42	長崎	900	16,640	17,540	4,600	1,800	6,400	23,940
43	熊本	204	22,864	23,068	5,256	2,824	8,080	31,148
44	大分	230	12,660	12,890	2,756	3,218	5,974	18,864
45	宮崎	60	12,200	12,260	2,800	3,143	5,943	18,203
46	鹿児島	606	19,240	19,846	3,268	4,649	7,917	27,763
47	沖縄	240	16,280	16,520	3,020	3,990	7,010	23,530
合計		76,292	1,248,832	1,325,124	313,195	368,430	681,625	2,006,749

※山梨県の血小板成分献血目標量については、血小板製剤製造が東京都において行われているため、東京都に併せて計上している。

平成21年度に献血により受入れる血液の目標量を確保するための各採血所毎の目標量及び稼働数

	血液センター					献血ルーム(出張所)					移動採血車					オープン献血					目標量合計 (単位:L)	総稼働数
	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数	全血献血	成分献血		小計 (単位:L)	稼働数		
		血小板	血漿				血小板	血漿				血小板	血漿				血小板	血漿				
北海道	3,960	6,808	2,944	13,712	1,152	18,590	7,264	3,221	29,075	1,677	56,430	0	0	56,430	2,773	0	0	0	0	0	99,217	5,602
青森	970	880	1,049	2,899	311	2,910	2,640	3,146	8,696	727	10,920	0	0	10,920	700	0	0	0	0	0	22,515	1,738
岩手	298	292	171	761	141	1,855	2,922	1,315	6,092	363	10,869	386	1,713	12,967	990	58	0	0	58	4	19,878	1,498
宮城	0	0	0	0	0	7,270	6,164	7,254	20,688	726	14,884	0	400	15,084	1,020	300	0	0	300	14	36,072	1,760
秋田	370	1,200	665	2,235	305	1,075	1,496	1,077	3,648	307	10,155	424	880	11,459	886	1,220	0	0	1,220	73	18,562	1,571
山形	0	0	0	0	0	780	1,476	3,753	6,019	362	9,730	0	0	9,730	560	0	0	0	0	0	15,749	922
福島	1,482	2,748	2,824	7,054	626	846	1,572	1,613	4,031	363	20,952	0	0	20,952	1,262	0	0	0	0	0	32,037	2,251
茨城	0	0	0	0	0	3,976	5,724	9,776	19,476	1,086	21,016	0	0	21,016	1,266	0	0	0	0	0	40,492	2,352
栃木	700	2,000	2,195	4,895	363	1,540	2,400	3,268	7,208	363	14,968	0	845	15,813	1,130	664	476	448	1,588	120	29,504	1,976
群馬	0	0	0	0	0	5,912	5,492	5,036	16,440	972	13,912	0	0	13,912	851	184	0	0	184	9	30,536	1,832
埼玉	0	0	0	0	0	22,065	11,798	25,540	59,401	2,460	34,724	0	0	34,724	1,761	81	0	0	81	4	94,206	4,225
千葉	0	0	0	0	0	19,500	12,600	19,822	51,922	2,113	35,980	0	0	35,980	2,115	1,020	0	0	1,020	61	88,922	4,289
東京	0	0	0	0	0	85,147	43,744	36,978	165,869	4,240	51,148	0	0	51,148	2,505	17,151	0	0	17,151	840	234,168	7,585
神奈川	0	0	0	0	0	24,948	16,220	38,165	79,333	2,783	53,452	0	0	53,452	2,957	0	0	0	0	0	132,785	5,740
新潟	0	0	0	0	0	8,977	5,992	6,450	21,419	1,090	13,883	0	0	13,883	739	0	0	0	0	0	35,302	1,829
富山	0	0	0	0	0	930	3,000	2,206	6,136	363	9,370	0	0	9,370	480	0	0	0	0	0	15,506	843
石川	1,660	1,920	781	4,361	299	1,640	2,000	1,274	4,914	300	9,920	0	0	9,920	410	0	0	0	0	0	19,195	1,009
福井	790	2,140	1,680	4,610	312	0	0	0	0	0	7,970	0	0	7,970	330	290	0	0	290	6	12,870	648
山梨	0	0	0	0	0	1,280	0	4,750	6,030	363	7,220	0	500	7,720	545	0	0	0	0	0	13,750	908
長野	1,538	2,100	4,254	7,892	340	1,768	2,300	3,660	7,728	495	16,494	0	0	16,494	800	0	0	0	0	0	32,114	1,635
岐阜	1,140	1,900	4,107	7,147	311	1,940	1,900	4,062	7,902	675	15,020	0	45	15,065	900	0	0	0	0	0	30,113	1,886
静岡	235	634	653	1,522	144	4,729	8,705	8,843	22,277	1,091	31,466	0	48	31,514	1,944	130	0	0	130	6	55,443	3,185
愛知	1,661	2,197	3,135	6,993	587	21,685	16,163	21,623	59,471	2,381	38,706	0	0	38,706	2,450	1,848	0	0	1,848	50	107,018	5,468
三重	344	1,347	1,913	3,604	307	800	3,142	4,464	8,406	561	13,420	0	0	13,420	710	0	0	0	0	0	25,430	1,578
滋賀	1,208	1,930	3,112	6,250	353	285	603	973	1,861	155	9,741	803	1,293	11,837	718	0	0	0	0	0	19,948	1,226
京都	0	0	0	0	0	6,800	6,896	7,215	20,911	916	21,810	0	0	21,810	1,042	140	0	0	140	9	42,661	1,967
大阪	2668	1811	1752	6231	343	27381	21,325	20586	69302	2634	72784	0	0	72784	4333	3175	0	0	3,175	189	151,502	7,499
兵庫	0	0	0	0	0	29,880	11,388	17,399	58,667	1,602	24,817	0	0	24,817	2,117	23	0	0	23	2	83,507	3,721
奈良	560	920	945	2,425	205	2,054	2,460	2,633	7,147	461	11,986	0	0	11,986	663	0	0	0	0	0	21,558	1,329
和歌山	0	0	0	0	0	820	2,693	2,475	5,988	312	12,516	0	0	12,516	783	0	0	0	0	0	18,504	1,095
鳥取	694	1,676	830	3,200	254	198	216	72	486	52	5,936	172	95	6,203	394	0	0	0	0	0	9,889	700
島根	253	1,432	1,312	2,997	298	0	0	0	0	0	6,313	0	0	6,313	400	100	576	440	1,116	146	10,426	844
岡山	690	2,600	1,709	4,999	293	1,700	3,240	2,563	7,503	313	19,471	0	0	19,471	1,074	359	0	0	359	6	32,332	1,686
広島	0	0	0	0	0	5,230	12,060	5,425	22,715	673	26,450	0	0	26,450	1,255	10	0	0	10	25	49,175	1,953
山口	580	1,916	1,666	4,162	311	1,204	1,180	1,584	3,968	311	15,534	0	0	15,534	870	0	0	0	0	0	23,664	1,492
徳島	804	1,360	886	3,050	260	1,310	916	730	2,956	261	6,176	0	0	6,176	400	0	0	0	0	0	12,182	921
香川	0	0	0	0	0	1,840	2,560	2,323	6,723	363	9,960	0	0	9,960	588	0	0	0	0	0	16,683	951
愛媛	0	0	0	0	0	84	3,192	4,030	7,306	363	15,860	0	0	15,860	637	312	0	0	312	7	23,278	1,007
高知	0	0	0	0	0	1,340	1,880	2,071	5,291	362	8,500	0	0	8,500	596	0	0	0	0	0	13,791	858
福岡	1,192	1,895	1,981	5,068	297	10,378	9,567	11,344	31,289	1,268	39,880	0	0	39,880	1,603	2,636	0	0	2,636	106	78,873	3,274
佐賀	1,800	2,064	2,808	6,672	361	0	0	0	0	0	7,272	0	0	7,272	310	0	0	0	0	0	13,944	671
長崎	400	920	194	1,514	243	3,246	3,680	1,807	8,533	623	13,894	0	0	13,894	724	0	0	0	0	0	23,940	1,590
熊本	2,591	2,441	1,307	6,339	295	4,241	2,815	1,517	8,573	316	16,236	0	0	16,236	790	0	0	0	0	0	31,148	1,401
大分	0	0	0	0	0	1,740	2,756	3,218	7,714	364	10,790	0	0	10,790	592	360	0	0	360	18	18,864	974
宮崎	0	0	0	0	0	1,430	2,800	3,143	7,373	364	10,830	0	0	10,830	630	0	0	0	0	0	18,203	894
鹿児島	1,184	1,308	1,710	4,202	295	3,128	1,960	2,939	8,027	363	15,534	0	0	15,534	930	0	0	0	0	0	27,763	1,588
沖縄	0	0	0	0	0	2,160	3,020	3,990	9,170	363	13,785	0	0	13,785	698	575	0	0	575	27	23,530	1,088
合計	29,772	48,439	46,581	124,793	9,006	346,622	261,919	315,142	923,684	38,300	918,093	1,785	5,819	925,697	52,231	30,637	1,052	888	32,577	1,722	2,006,749	101,259

注1. オープン献血とは、献血のベッド等の器材を持参し、事業所や学校の会議室等を会場として行う献血受入れ方式。

注2. 稼働数とは、血液センター・献血ルームでは開設日数を、移動採血車では配車台数を、オープン献血では献血会場数をいう。

注3. 血液センター稼働数・岩手県…(141)は、毎週月曜・水曜・金曜の開所、静岡県…(141)は、毎週月曜・水曜・土曜の開所<浜松センター>。

注4. 献血ルーム(出張所)稼働数・滋賀県…(155)は、毎週火・金・土曜の開所<長浜出張所>、鳥取県…(52)は、毎週水曜日のみ開所<西部出張所>。

平成21年度献血受入施設数及び献血受入施設整備予定等

別紙2-2

	献血受入施設数等(平成21年4月1日現在)				平成21年度の献血受入施設整備予定							
	血液センター (※)	献血ルーム	移動採血車	成分採血装置	血液センター		献血ルーム		移動採血車		成分採血装置	
					新設予定数	廃止予定数	新設予定数	廃止予定数	増減数	更新数	増減数	更新数
北海道	4(4)	6	17	78	0	0	0	0	0	1	0	11
青森	2(2)	2	5	50	0	0	0	0	0	0	0	0
岩手	1(1)	1	5	27	0	0	0	0	0	0	0	0
宮城	1(0)	2	6	31	0	0	1	1	0	0	0	6
秋田	1(1)	1	5	25	0	0	0	0	0	0	0	0
山形	1(0)	1	3	10	0	0	0	0	0	0	0	0
福島	3(3)	1	8	41	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城	1(0)	3	6	29	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木	1(1)	1	6	32	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬	1(0)	3	5	35	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉	1(0)	7	10	67	0	0	0	0	0	1	0	9
千葉	2(0)	6	10	72	0	0	0	0	0	0	0	4
東京	2(0)	13	20	211	0	0	1	1	0	1	△ 4	0
神奈川	2(0)	8	14	123	0	0	1	1	0	0	0	12
新潟	1(0)	3	4	31	0	0	0	0	0	1	0	0
富山	1(0)	1	3	11	0	1	0	0	0	0	0	2
石川	1(1)	1	4	21	0	0	0	0	0	0	0	5
福井	1(1)	0	3	16	0	0	0	0	0	0	0	0
山梨	1(0)	1	4	19	0	0	0	0	0	0	0	0
長野	1(1)	2	4	33	0	0	0	0	0	0	0	10
岐阜	1(1)	2	4	31	0	0	0	0	0	0	0	0
静岡	3(1)	3	9	53	0	0	0	0	0	1	0	0
愛知	2(2)	7	11	117	0	0	0	0	0	0	0	10
三重	1(1)	2	4	26	0	0	0	0	0	0	1	10
滋賀	1(1)	1	5	23	0	0	0	0	0	1	0	0
京都	2(0)	3	6	34	0	0	0	0	0	1	0	4
大阪	3(2)	9	20	142	0	0	0	0	0	1	0	8
兵庫	1(0)	5	9	66	0	0	0	0	0	1	0	0
奈良	1(1)	2	4	27	0	0	0	0	0	1	0	3
和歌山	1(0)	1	5	25	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥取	1(1)	1	3	15	0	0	1	1	0	0	0	0
島根	1(1)	0	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山	1(1)	1	5	25	0	0	0	0	0	0	0	5
広島	1(0)	2	6	44	0	0	0	0	0	1	0	2
山口	1(1)	1	5	21	0	0	0	0	0	1	0	0
徳島	1(1)	1	4	19	0	0	0	0	△ 1	0	△ 1	0
香川	1(0)	1	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0
愛媛	1(0)	1	4	22	0	0	0	0	0	0	0	2
高知	1(0)	1	3	12	0	0	0	0	0	0	0	0
福岡	3(1)	4	11	66	0	0	1	1	0	0	0	8
佐賀	1(1)	0	2	11	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎	2(1)	2	5	21	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本	1(1)	1	5	26	0	0	0	0	0	1	0	3
大分	1(0)	1	4	17	0	0	0	0	0	1	0	2
宮崎	1(0)	1	4	14	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿児島	1(1)	1	5	24	0	0	0	0	0	1	0	2
沖縄	1(0)	1	3	22	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	65(34)	118	295	1,894	0	1	5	5	△ 1	16	△ 4	118

※平成21年4月1日現在の献血受入施設(血液センター)について…()数は、実際に受け入れを行っている血液センター数。残りの31施設については、血液センターの立地条件等の理由により、献血ルーム、移動採血車、オープン献血により必要な献血者を確保している。
 ※更新とは、増減なく新たな採血車、成分採血装置に入れ替えること。

各都道府県血液センターにおける主な取り組み

①若年層を対象とした対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	親と子の血液センター見学会、各種セミナーの開催	小学生とその保護者、中学生、高校生など
2	卒業献血キャンペーンと題し、高校にキャンペーンチラシを配布	高校3年生
3	横浜ベイスターズ、横浜F・マリノスとコラボレーションした献血推進	高校生、大学生
4	献血ポスターの募集	小学生、中学生
5	学生献血連盟によるサマー献血キャンペーン等の実施	18歳から22歳の若年者

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	新規協力企業、団体の確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓蒙活動
2	講演会、説明会の開催	献血協力企業、団体
3	県・市町村・血液センター3者による企業訪問	年1回実施の企業及び団体
4	新聞への献血実施お礼広告の掲載	献血協力企業、団体
5	ライオンズクラブ、ロータリークラブとの連携強化	県内ライオンズクラブ、ロータリークラブ

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	メールによる情報配信、献血要請、はがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員、年1回の献血者など
2	会員募集用リーフレットの作成、情報誌等の作成	400mL献血者、成分献血者
3	リラクゼーションの実施	メール会員
4	年間2回献血協力事業所の拡大	年1回の献血協力事業所
5	初回献血者サンクスキャンペーン(お礼状の送付)	年間初回献血者

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	受付時推進資材の作成及び活用	全血献血希望者
2	メール、はがきによる依頼	400mL献血可能者
3	400mL献血推進キャンペーンの実施	400mL献血可能者
4	渉外時における400mL献血の推進	事業所、団体の献血担当者
5	講習会の実施	各献血団体

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象
1	次回の平日成分献血予約の推進	成分献血者
2	各事業所等の献血ルームへの送迎	成分献血者
3	新聞に献血情報掲載	新潟日報の社会面
4	冬期限定テレビCMの活用	県民
5	献血ルームにおけるサービスの充実	ルームにおける献血者

平成21年 3月10日

平成20年度献血受入計画（平成20年度 4～12月）における取組み状況と
平成21年度献血受入計画の策定について

日本赤十字社 血液事業本部

- 1 平成20年度 4～12月における各都道府県別の血液確保量、
確保目標量に対する達成率及び比較

別紙1のとおり

- 2 血液確保目標量と確保量及び供給量との比較に基づく分析

各血液センターにおける献血受入計画（平成20年度 4～12月：平成20年度の受入計画を3/4したもの）の目標量147.9万Lに対する確保量は149.5万Lで、達成率は101.1%となっており、確保量が目標量を上回っています。これは、献血受入計画を基本としながらも、医療機関からの受注状況と血液の在庫状況を勘案して、安定供給を確保するため、各血液センターが状況に応じた採血を行った結果です。また、全体の血液確保量149.5万Lに対し、原料血漿及び輸血用血液製剤の合計使用量は145.0万L（使用量に対する確保率103.1%）です。4.4万L（確保量の3.0%）が未使用量として計上しておりますが、この中には検査不合格と期限切れが含まれています。

以上のことから、平成20年度は、安定供給が確保されています。なお、安定供給を確保する上で、ある程度の未使用量が発生しますが、引き続き、より一層需給管理の精度向上と需給調整による有効活用を図ってまいります。

- 3 血液製剤の安定供給等に係る取組み

輸血用血液製剤の在庫の過不足の早期把握、安定的な供給を図るための必要な措置の検討と実施及び需給計画の検証を行うため、血液事業本部及び血液センターにおいては次の取組みを行っています。

- (1) 血液事業本部の取組み

血液事業本部においては、献血者確保及び血液製剤の供給等について審議する「血液事業推進委員会」を設置しています。特に輸血用血液製剤の安定供給を確保するため、同委員会の下に「安定供給促進小委員会」（原則毎週金曜日開催）を設置し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、安

定供給を実現・維持するための対応策の検討を行い、各血液センターへの指示・監視・指導を実施しています。

(2) 各血液センターの取組み

各血液センターにおいては、「需給計画委員会」(原則毎週開催)を設置し、採血・製造・供給の予測に基づく在庫シミュレーションによる赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需給計画の検証を行い、基本となる献血受入計画に調整を加え、翌月・翌々月の中期的需給計画を策定しています。

また、基幹センターは、上記の血液センターとしての対応に加え、管内血液センターの需給状況(採血・製造・供給状況等)の把握、需給計画の検証及び指導を行うとともに必要に応じて血液の需給調整を行っています。

(3) 在庫量の情報管理と危機管理対応

① 血液事業本部は、休日を除く毎日、午前6時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を把握(別紙2)し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省へ報告しています。

また、各血液センターからは各都道府県及び各都道府県支部へ同様に情報提供しています。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥った血液センターについては、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等を、基幹センターを通じて血液事業本部へ提出させ、それを受けて血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示しています。

平成20年度については、注意報水準が8回発生していますが、全で一過性のもので、需給調整等の早急な対応により翌日には回避しております。(警報水準発生はなし)

③ さらに、需給予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、今後の採血計画の見直しや増班体制などの具体的な対策を講じるよう指示しています。

④ また、平成17年4月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、万一、安定供給の確保が懸念される場合には、国及び都道府県と連携して迅速に効果的な対応がとれる体制を整備しています。

(4) 冬季・春季献血者確保対策

平成20年10月、平成21年2月に基幹センター献血推進・供給担当課長会議を開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び春季の在庫予測シミュレーション等に基づき、進捗状況確認及び対策の検討を行いました。

また、各基幹センターにおいても管内の血液センターを招集し、そこに血液事業本部からも職員を派遣して冬季・春季献血者確保対策の検討を行いました。

4 平成20年度献血受入計画の進捗状況

平成20年度献血受入計画として、核となる対策と取組みを血液事業本部から各血液センターへ指示し、各血液センターでは都道府県との連携のもとに受入計画を策定・実施しています。なお、その対策と各血液センターにおける主な取組みの実施状況は次のとおりです。

(1) 若年層を対象とした対策

- ・ 小中高生を対象とした血液センター等の見学受入れの推進（体験学習を通じて献血に触れ合う機会を創出し、献血への理解を求める）

＜平成19年度実績＞

実施回数571回 参加人数27,192人(目標達成率160%)

＜平成20年度上半期実績＞

実施回数273回 参加人数15,835人

- ・ 10代後半から30代前半の若年層を対象に献血への理解促進を図るために血液センター施設などを利用し、血液事業の紹介等のセミナーを開催

＜平成19年度実績＞

実施回数322回 参加人数28,446人(目標達成率310%)

＜平成20年度上半期実績＞

実施回数173回 参加人数7,829人

(2) 企業・団体における献血の推進対策

- ・ 新規協力企業及び団体の開拓
- ・ 献血ルームや移動献血会場への協力企業の開拓
- ・ ロゴマークの活用（ロゴマーク取得促進のための専用ウェブサイトの構築、ポスター製作、ステッカー配布など）

＜平成19年度実績＞

ロゴマーク配布数1,895件 協賛企業・団体数34,059件(目標達成率101%)

(ロゴマーク配布数の平成19年2月からの累計は3,000件超えた)

<平成20年度上半期実績>

ロゴマーク配布数885回 協賛企業・団体数35,888件

(3) 複数回献血者確保対策

- ・ 「複数回献血クラブ」会員の募集を増強
- ・ 「複数回献血クラブ」会員への献血依頼及び理解促進のための情報提供を実施
- ・ 「複数回献血クラブ」会員の健康管理に役立つため、携帯電話やパソコンで自身の検査成績の照会機能を整備
- ・ 複数回献血クラブ運営の充実のため、担当職員の知識向上等を目的とした全国研修会を実施

<平成19年度実績>

複数回献血クラブ会員数109,400人(平成18年度末より9,400人増)

<献血実人数に占める複数回献血者の割合>

(平成19年10月1日～平成20年9月30日実績:30%(前年同比1%上昇))

(4) 目標量を確保するための全般的な対策

(献血受入体制への取組み)

- ・ 献血者が安心して献血できるように、職員の教育訓練の充実強化を図るため、全国研修会の開催及び各施設研修のための統一教材(DVD等)作製の実施
- ・ 献血者の意向を踏まえた献血受入体制の充実を図るため、献血者満足度調査を実施

(広報活動への取組み)

- ・ 7月「愛の血液助け合い運動」
- ・ 5～12月「いっしょに献血キャンペーン」
- ・ 12月「クリスマスキャンペーン」
- ・ 1～2月「はたちの献血」
- ・ 3～4月「春の献血キャンペーン」

を全国で展開しました。この他、血液センターが独自に、「ティーンズドナーキャンペーン」、「ヤング献血21キャンペーン」、「彩の国献血フォーラム」、「ハッピータイムキャンペーン」、地元プロ野球チームやJリーグプロサッカーチームの協力のキャンペーン等を実施

- ・ ポスター、テレビ・ラジオCM素材、新聞折込、キャンペーン専用サイト等インターネットを活用した広報を実施
- ・ AED講習会と併せた献血実施

(血液センターにおける献血者確保への取組み)

- ・ 複数回献血クラブ会員等へ献血を依頼し、需要に見合った採血を実施
- ・ 需要に応じた400mL 献血を推進
- ・ 需給予測に基づく、受付時間延長や献血バス派遣を増やす等の措置を実施
- ・ 新規献血協力団体の開拓を行うとともに、既存協力団体の献血実施回数の増加を依頼
- ・ 事業所で幹部職員を対象に事前に説明会を開催し、社員に対する献血協力の呼びかけに協力いただいた
- ・ 企業と地元自治会との献血の共同開催
- ・ 大型ショッピングセンターにおける定期的な献血の実施
- ・ インターネットや新聞紙上における協力団体のお礼紹介

5 平成21年度献血受入計画の策定

(1) 当該年度に献血により受け入れる血液の目標量

各血液センターにおける平成 19 年度供給数の実績と平成 20 年度上半期の供給数を中心に、過去 3 年の供給動向(別紙 3)から傾向を分析し、当該年度の供給数を見込み、都道府県との協議のうえ、献血の目標量を算定しました。

(2) 前号の目標量を確保するために必要な措置に関する事項

・ 献血受入体制の策定

各血液センターにおいては、献血の目標量を確保するため、献血種別にも配慮しながら、過去の献血実績に基づき、施設別(献血ルーム、献血バス、出張採血)の月別、週別、日別の献血受入体制を策定しています。

これらをもって、都道府県と献血受入計画等を協議し、基礎となる年間の献血バスの配車計画等を定めています。

・ 献血者の確保対策

血液事業本部では、献血者の確保に関する基本的対策について、国の基本方針及び献血推進計画に呼応した献血者確保対策を基本とし、各血液センターへ指示しています。

血液センターでは、血液事業本部の指示による献血者確保対策を基本としながらも、それぞれの地域事情を反映した「都道府県献血推進計画」と連携した献血者確保の取組みを計画しています。

一年を通して安定供給を維持するためには、地道な日々の取組みの積み重ねによる献血者の確保によるところが大きいと言えます。また、不足が予測される場合には早めの対応が重要です。各血液センターで実施されている各種取組みは、これま

で過去に行ってきた取組みの中でも効果的なものが継続的に実施されています。

平成 20 年度の赤血球製剤の在庫推移は、別紙 4 のとおりです。

平成 21 年度の各血液センターにおける献血者の確保対策については、別紙 5 のとおり血液事業本部が示した基本となる確保対策項目に、各血液センター自らが数値目標を設定し、具体的取組みの進捗状況を評価することとしています。

なお、血液事業本部においては、各地の情報を収集し、全国会議等において各地の取組み事例を紹介する機会を設け、また、各地の取組みを月間情報として配布する等、献血者確保のための情報共有を図っています。

(3) その他献血の受入れに関する重要事項

血液事業本部では、国の基本方針及び献血推進計画に基づき、日本赤十字社として、これら方針及び計画に沿った献血の受入れに関する重要事項について、計画しています。

各都道府県別血液確保量等一覧(平成20年4~12月)

単位:L

No.	都道府県名	血液確保量				血液使用量				献血量-使用量	
		受入計画量 A	献血量 B	B-A	計画達成率 B/A	供給量 自センター+他 センターへの払 送付量	原料血漿 送付量	計 C	B/C	未使用量 D=B-C	率 D/B
1	北海道	74,276	78,378.69	4,102	105.5%	40,225	34,020	74,245	105.6%	4,134	5.3%
2	青森県	17,111	15,874.91	△ 1,236	92.8%	7,007	8,216	15,223	104.3%	652	4.1%
3	岩手県	14,740	15,256.32	517	103.5%	6,409	8,156	14,565	104.7%	691	4.5%
4	宮城県	26,755	25,773.40	△ 981	96.3%	15,774	20,139	35,913	71.8%	△ 10,139	-39.3%
5	秋田県	13,602	13,777.09	175	101.3%	6,453	6,841	13,294	103.6%	483	3.5%
6	山形県	12,008	10,935.37	△ 1,072	91.1%	747	0	747	-	10,188	93.2%
7	福島県	23,527	25,514.52	1,988	108.4%	11,781	12,449	24,230	105.3%	1,285	5.0%
8	茨城県	30,221	28,707.47	△ 1,513	95.0%	12,554	15,302	27,856	103.1%	851	3.0%
9	栃木県	21,726	22,288.41	562	102.6%	9,802	12,405	22,207	100.4%	82	0.4%
10	群馬県	23,230	23,747.34	518	102.2%	10,120	12,868	22,988	103.3%	759	3.2%
11	埼玉県	70,283	73,164.02	2,882	104.1%	32,458	51,076	83,533	87.6%	△ 10,369	-14.2%
12	千葉県	65,867	64,948.79	△ 918	98.6%	30,013	33,871	63,883	101.7%	1,065	1.6%
13	東京都	171,962	167,554.59	△ 4,408	97.4%	81,268	87,010	168,279	99.6%	△ 724	-0.4%
14	神奈川県	94,208	93,412.37	△ 795	99.2%	38,269	54,699	92,968	100.5%	444	0.5%
15	新潟県	26,309	28,343.71	2,035	107.7%	11,580	15,106	26,686	106.2%	1,657	5.8%
16	富山県	11,760	12,056.49	296	102.5%	4,686	6,573	11,259	107.1%	798	6.6%
17	石川県	14,060	14,937.74	878	106.2%	6,415	7,059	13,475	110.9%	1,463	9.8%
18	福井県	9,086	9,620.56	535	105.9%	4,597	5,103	9,700	99.2%	△ 79	-0.8%
19	山梨県	9,755	10,604.49	849	108.7%	2,454	1,908	4,362	243.1%	6,243	58.9%
20	長野県	23,333	22,697.25	△ 635	97.3%	5,979	6,821	12,800	177.3%	9,898	43.6%
21	岐阜県	22,705	21,243.36	△ 1,461	93.6%	4,069	2,631	6,700	317.1%	14,543	68.5%
22	静岡県	40,621	40,526.47	△ 94	99.8%	16,728	22,464	39,192	103.4%	1,334	3.3%
23	愛知県	79,668	85,663.07	5,995	107.5%	39,378	57,333	96,711	88.6%	△ 11,048	-12.9%
24	三重県	18,278	18,005.09	△ 273	98.5%	7,161	10,672	17,834	101.0%	171	1.0%
25	滋賀県	14,985	13,237.36	△ 1,748	88.3%	3,812	3,290	7,102	186.4%	6,135	46.3%
26	京都府	30,964	33,206.83	2,243	107.2%	15,384	16,955	32,340	102.7%	867	2.6%
27	大阪府	111,296	116,379.38	5,083	104.6%	60,713	62,385	123,098	94.5%	△ 6,718	-5.8%
28	兵庫県	60,723	59,253.99	△ 1,469	97.6%	29,612	33,180	62,792	94.4%	△ 3,538	-6.0%
29	奈良県	16,519	15,404.66	△ 1,114	93.3%	7,219	7,538	14,757	104.4%	648	4.2%
30	和歌山県	13,436	12,399.57	△ 1,037	92.3%	0	0	0	-	12,400	100.0%
31	鳥取県	7,388	7,128.98	△ 259	96.5%	1,528	759	2,287	311.7%	4,842	67.9%
32	島根県	7,883	7,371.39	△ 511	93.5%	658	0	658	-	6,713	91.1%
33	岡山県	23,966	24,950.83	985	104.1%	14,315	14,110	28,425	87.8%	△ 3,474	-13.9%
34	広島県	36,641	36,360.94	△ 280	99.2%	19,174	22,309	41,483	87.7%	△ 5,122	-14.1%
35	山口県	17,888	17,963.11	76	100.4%	8,313	8,712	17,025	105.5%	938	5.2%
36	徳島県	9,338	9,552.42	215	102.3%	4,191	4,739	8,930	107.0%	623	6.5%
37	香川県	12,263	12,453.47	191	101.6%	5,844	6,198	12,042	103.4%	412	3.3%
38	愛媛県	17,114	18,046.81	933	105.5%	8,183	8,642	16,825	107.3%	1,222	6.8%
39	高知県	9,956	10,046.91	91	100.9%	4,582	4,764	9,346	107.5%	701	7.0%
40	福岡県	57,588	59,016.33	1,428	102.5%	67,754	81,893	149,647	39.4%	△ 90,630	-153.6%
41	佐賀県	10,346	10,928.91	583	105.6%	0	0	0	-	10,929	100.0%
42	長崎県	17,156	17,774.55	618	103.6%	1,383	0	1,383	-	16,392	92.2%
43	熊本県	23,617	23,974.50	358	101.5%	2,248	0	2,248	-	21,726	90.6%
44	大分県	13,862	13,819.79	△ 42	99.7%	1,190	0	1,190	-	12,630	91.4%
45	宮崎県	13,448	13,747.53	300	102.2%	992	0	992	-	12,755	92.8%
46	鹿児島県	20,378	20,921.74	543	102.7%	2,851	183	3,035	689.5%	17,887	85.5%
47	沖縄県	17,162	17,788.66	626	103.6%	8,352	7,805	16,156	110.1%	1,632	9.2%
計		1,479,002	1,494,760	15,758	101.1%	674,225	776,184	1,450,409	103.1%	44,351	3.0%

※ 受入計画量は、平成20年度受入計画を3/4したもの

※ 血液使用量が「0」または少量の県については、製剤業務集約の関係からである。

※ 未使用量がマイナス△表示されている県については、製剤業務集約の関係からである。

平成20年4～12月各都道府県別献血者数一覧

単位:人

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						
		血小板献血	血漿献血	400mL献血	200mL献血	合計	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合計
1	北海道	28,194	10,511	137,393	30,464	206,562	13,984	39,675	49,763	46,844	39,973	16,323	206,562
2	青森県	6,412	5,417	24,482	6,322	42,633	3,794	8,790	11,053	10,270	6,894	1,832	42,633
3	岩手県	6,830	5,837	22,004	6,554	41,225	4,559	8,992	10,027	8,866	6,942	1,839	41,225
4	宮城県	10,980	12,674	35,448	9,192	68,294	6,995	19,236	17,233	14,372	8,251	2,207	68,294
5	秋田県	6,498	4,128	20,150	6,531	37,307	3,950	8,516	9,925	8,461	5,330	1,125	37,307
6	山形県	3,485	2,808	17,702	6,117	30,112	3,488	6,458	7,440	6,991	4,721	1,014	30,112
7	福島県	9,250	8,230	39,480	11,081	68,041	4,054	13,124	18,397	17,079	12,372	3,015	68,041
8	茨城県	11,112	10,784	41,130	12,682	75,708	6,276	14,205	20,612	18,060	12,334	4,221	75,708
9	栃木県	8,939	10,030	29,745	11,584	60,298	8,408	12,918	16,463	12,573	7,573	2,363	60,298
10	群馬県	11,155	9,638	32,941	9,258	62,992	5,651	12,538	18,704	14,780	8,560	2,759	62,992
11	埼玉県	22,689	40,249	91,615	33,279	187,832	17,488	39,686	50,104	41,271	27,381	11,902	187,832
12	千葉県	22,916	29,887	91,251	30,776	174,830	14,891	39,506	47,910	38,521	24,194	9,808	174,830
13	東京都	79,665	69,023	234,917	49,847	433,452	30,583	131,132	119,719	87,015	47,267	17,736	433,452
14	神奈川県	31,121	56,697	138,265	4,101	230,184	10,292	50,802	67,106	56,920	32,532	12,532	230,184
15	新潟県	10,975	13,166	39,419	8,460	72,020	6,059	17,594	18,566	15,875	11,138	2,788	72,020
16	富山県	5,547	3,732	17,518	4,463	31,260	1,540	6,763	9,395	7,331	4,769	1,462	31,260
17	石川県	7,524	4,638	22,292	4,452	38,906	2,109	9,150	11,086	8,910	5,807	1,844	38,906
18	福井県	4,153	2,304	16,098	2,595	25,150	1,055	4,904	6,530	6,620	4,722	1,319	25,150
19	山梨県	0	8,599	14,641	3,169	26,409	2,699	5,840	6,702	6,218	3,725	1,225	26,409
20	長野県	8,301	11,352	32,735	7,044	59,432	2,923	11,747	17,358	15,391	9,142	2,871	59,432
21	岐阜県	8,399	11,760	29,104	5,852	55,115	2,626	9,915	14,077	14,017	10,190	4,290	55,115
22	静岡県	17,938	15,521	60,592	10,636	104,687	6,074	21,135	29,973	25,877	16,418	5,210	104,687
23	愛知県	33,857	48,856	117,536	21,182	221,431	12,747	56,546	63,575	49,567	29,024	9,972	221,431
24	三重県	8,274	9,047	26,972	64	44,357	1,312	8,349	13,356	12,558	6,957	1,825	44,357
25	滋賀県	5,807	4,927	20,158	3,120	34,012	1,288	6,915	9,269	8,146	6,136	2,258	34,012
26	京都府	12,736	14,029	53,823	926	81,514	4,453	21,279	19,408	17,257	13,096	6,021	81,514
27	大阪府	43,611	44,558	187,548	16,927	292,644	10,970	60,633	81,588	70,639	46,264	22,550	292,644
28	兵庫県	21,274	22,209	96,800	10,473	150,756	7,267	31,655	41,056	35,862	25,218	9,698	150,756
29	奈良県	6,301	5,080	25,279	2,614	39,274	2,467	8,259	9,668	9,540	6,999	2,341	39,274
30	和歌山県	3,979	3,025	21,755	3,564	32,323	1,413	5,291	8,460	8,557	6,202	2,400	32,323
31	鳥取県	3,894	1,104	11,931	1,218	18,147	627	4,228	5,127	4,549	3,040	576	18,147
32	島根県	4,588	1,951	11,630	237	18,406	647	3,591	5,329	4,986	3,127	726	18,406
33	岡山県	9,658	8,142	41,351	4,150	63,301	2,968	13,969	16,829	14,620	10,649	4,266	63,301
34	広島県	19,957	13,293	54,661	4,539	92,450	4,358	20,093	26,389	21,893	14,508	5,209	92,450
35	山口県	6,003	4,864	31,788	3,350	46,005	1,729	8,363	12,625	11,145	9,150	2,993	46,005
36	徳島県	4,149	2,338	16,848	251	23,586	705	4,981	6,677	5,640	4,428	1,155	23,586
37	香川県	4,843	3,677	21,676	895	31,091	1,388	6,274	8,793	7,427	5,543	1,666	31,091
38	愛媛県	7,159	6,383	30,357	454	44,353	1,570	10,198	12,496	10,407	7,362	2,320	44,353
39	高知県	3,917	2,667	15,175	5,141	26,900	1,683	5,856	7,184	6,015	4,700	1,462	26,900
40	福岡県	20,945	20,102	104,094	219	145,360	7,528	33,339	37,633	31,643	24,673	10,544	145,360
41	佐賀県	4,162	4,740	18,203	168	27,273	1,229	5,878	7,545	6,460	4,893	1,268	27,273
42	長崎県	8,518	4,507	29,560	3,338	45,923	2,848	9,458	12,125	11,224	8,106	2,162	45,923
43	熊本県	10,070	7,517	42,135	994	60,716	2,828	13,816	15,723	14,380	10,921	3,048	60,716
44	大分県	4,845	5,133	23,738	611	34,327	1,755	6,847	9,586	8,305	5,928	1,906	34,327
45	宮崎県	5,180	5,546	22,761	486	33,973	1,320	7,133	9,245	8,369	6,054	1,852	33,973
46	鹿児島県	6,420	8,019	35,693	2,615	52,747	2,690	11,757	13,652	12,785	9,344	2,519	52,747
47	沖縄県	5,251	8,650	29,696	1,008	44,605	2,540	11,452	14,345	9,915	5,463	890	44,605
計		587,481	607,349	2,280,090	363,003	3,837,923	239,828	868,786	1,045,826	884,151	588,020	211,312	3,837,923

平成19年度各都道府県別血液確保量等一覧

単位:L

単位：人											
No.	都道府県名	血液確保量				血液使用量				献血量-使用量	
		献血受入計画量		献血量	計画達成率	供給量 自センター+他 センターへの払	原料血漿 送付量	計	未使用量	率	
		平成19年度 A	平成19年度 B								B-A
1	北海道	99,479	102,931.60	3,453	103.5%	52,425	43,920.6	96,346	106.8%	6586	6.4%
2	青森県	23,929	21,461.96	△ 2,467	89.7%	9,484	10,712.4	20,197	106.3%	1265	5.9%
3	岩手県	19,422	18,657.24	△ 765	96.1%	7,894	10,400.8	18,295	102.0%	362	1.9%
4	宮城県	34,845	32,735.78	△ 2,109	93.9%	15,643	15,657.1	31,300	104.6%	1435	4.4%
5	秋田県	18,565	18,330.49	△ 235	98.7%	8,260	9,063.0	17,323	105.8%	1008	5.5%
6	山形県	15,705	13,455.26	△ 2,250	85.7%	5,689	7,140.4	12,830	104.9%	625	4.6%
7	福島県	29,469	32,402.94	2,934	110.0%	15,009	14,675.9	29,685	109.2%	2718	8.4%
8	茨城県	39,613	35,723.06	△ 3,890	90.2%	15,950	17,166.5	33,116	107.9%	2607	7.3%
9	栃木県	28,016	28,228.03	212	100.8%	12,392	13,913.8	26,305	107.3%	1923	6.8%
10	群馬県	30,295	30,975.10	680	102.2%	12,392	15,989.1	28,381	109.1%	2594	8.4%
11	埼玉県	91,583	92,949.89	1,367	101.5%	35,520	51,730.3	87,250	106.5%	5699	6.1%
12	千葉県	83,178	82,669.09	△ 509	99.4%	37,697	38,382.4	76,079	108.7%	6590	8.0%
13	東京都	218,775	213,041.10	△ 5,734	97.4%	103,760	107,107.5	210,867	101.0%	2174	1.0%
14	神奈川県	116,907	116,816.47	△ 91	99.9%	50,910	63,230.3	114,140	102.3%	2677	2.3%
15	新潟県	34,499	36,818.70	2,320	106.7%	15,807	18,295.0	34,102	108.0%	2717	7.4%
16	富山県	15,040	15,127.64	88	100.6%	6,031	7,897.2	13,928	108.6%	1199	7.9%
17	石川県	18,450	18,200.98	△ 249	98.7%	7,729	8,992.3	16,721	108.8%	1480	8.1%
18	福井県	12,256	12,523.37	267	102.2%	5,861	6,242.8	12,104	103.5%	420	3.3%
19	山梨県	12,696	13,542.54	847	106.7%	6,329	6,617.0	12,946	104.6%	597	4.4%
20	長野県	30,650	29,977.54	△ 672	97.8%	12,268	15,761.2	28,029	107.0%	1949	6.5%
21	岐阜県	29,160	27,951.31	△ 1,209	95.9%	10,982	15,604.6	26,587	105.1%	1364	4.9%
22	静岡県	51,140	52,516.89	1,377	102.7%	21,473	29,010.1	50,483	104.0%	2034	3.9%
23	愛知県	102,835	104,109.12	1,274	101.2%	44,205	56,183.5	100,389	103.7%	3721	3.6%
24	三重県	24,205	23,830.61	△ 374	98.5%	9,265	13,355.9	22,621	105.3%	1209	5.1%
25	滋賀県	18,904	17,159.75	△ 1,744	90.8%	7,957	8,655.7	16,613	103.3%	547	3.2%
26	京都府	43,333	42,162.59	△ 1,170	97.3%	19,601	20,685.7	40,286	104.7%	1876	4.4%
27	大阪府	148,276	147,336.37	△ 940	99.4%	77,482	74,770.5	152,252	96.8%	△ 4916	-3.3%
28	兵庫県	78,644	74,341.01	△ 4,303	94.5%	33,847	35,306.7	69,153	107.5%	5188	7.0%
29	奈良県	21,220	19,771.01	△ 1,449	93.2%	9,547	9,206.2	18,753	105.4%	1018	5.1%
30	和歌山県	17,027	15,580.34	△ 1,447	91.5%	438	0.0	438	3555.6%	15142	97.2%
31	鳥取県	10,048	9,701.78	△ 346	96.6%	4,580	4,676.7	9,257	104.8%	445	4.6%
32	島根県	10,791	10,568.19	△ 223	97.9%	4,444	5,508.5	9,953	106.2%	616	5.8%
33	岡山県	32,780	31,922.87	△ 857	97.4%	14,952	14,621.1	29,573	107.9%	2350	7.4%
34	広島県	49,880	46,716.95	△ 3,163	93.7%	21,822	21,776.6	43,598	107.2%	3119	6.7%
35	山口県	23,264	23,633.97	370	101.6%	11,228	10,923.6	22,151	106.7%	1483	6.3%
36	徳島県	12,185	11,225.27	△ 960	92.1%	5,258	4,887.5	10,146	110.6%	1080	9.6%
37	香川県	16,587	15,923.55	△ 663	96.0%	7,252	7,905.2	15,157	105.1%	766	4.8%
38	愛媛県	21,843	23,259.84	1,417	106.5%	10,379	10,983.9	21,363	108.9%	1897	8.2%
39	高知県	14,083	12,753.74	△ 1,329	90.6%	5,588	6,018.7	11,607	109.9%	1147	9.0%
40	福岡県	78,774	74,967.29	△ 3,807	95.2%	39,267	43,744.0	83,011	90.3%	△ 8044	-10.7%
41	佐賀県	13,318	13,709.68	392	102.9%	0	0.0	0	-	13710	100.0%
42	長崎県	23,005	22,601.68	△ 403	98.2%	10,134	11,178.4	21,312	106.1%	1290	5.7%
43	熊本県	28,950	31,272.67	2,323	108.0%	14,517	14,651.8	29,169	107.2%	2104	6.7%
44	大分県	17,426	17,935.48	509	102.9%	7,573	8,405.0	15,978	112.2%	1957	10.9%
45	宮崎県	17,955	17,314.74	△ 640	96.4%	8,268	8,536.4	16,805	103.0%	510	2.9%
46	鹿児島県	26,960	26,694.68	△ 265	99.0%	12,702	12,998.9	25,701	103.9%	993	3.7%
47	沖縄県	20,993	21,890.20	897	104.3%	10,436	8,379.4	18,816	116.3%	3074	14.0%
計		1,926,958	1,903,420	△ 23,538	98.8%	860,248	940,670	1,801,118	105.7%	102,303	5.4%

※血液使用量が「0」または少量の県については、製剤業務集約の関係からである。
 ※未使用量がマイナス△表示されている県については、製剤業務集約の関係からである。

平成19年度各都道府県別献血者数一覧

単位:人

No.	都道府県名	献血者数					年代別献血者数						
		血小板献血	血漿献血	400mL献血	200mL献血	合計	16-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	合計
1	北海道	36,677	11,244	182,112	43,317	273,350	18,352	54,017	66,557	60,844	53,381	20,199	273,350
2	青森県	8,394	7,656	33,569	7,997	57,616	4,739	12,067	15,279	13,944	9,199	2,388	57,616
3	岩手県	9,269	5,553	27,995	7,615	50,432	4,748	11,218	12,675	11,058	8,660	2,073	50,432
4	宮城県	14,917	12,470	48,498	11,769	87,654	8,858	24,833	22,163	18,195	10,907	2,698	87,654
5	秋田県	8,858	4,893	26,686	9,260	49,697	5,588	11,576	13,253	10,862	7,073	1,345	49,697
6	山形県	4,074	3,453	22,595	6,385	36,507	4,178	7,855	9,341	8,417	5,509	1,207	36,507
7	福島県	11,190	10,001	51,538	14,207	86,936	5,027	16,965	23,721	21,852	15,797	3,574	86,936
8	茨城県	15,519	11,021	51,974	17,792	96,306	8,207	18,568	26,879	22,052	15,700	4,900	96,306
9	栃木県	11,871	11,057	38,522	15,573	77,023	11,326	16,868	20,794	15,201	10,074	2,760	77,023
10	群馬県	13,691	10,768	44,596	14,490	83,545	7,710	17,347	24,831	18,991	11,327	3,339	83,545
11	埼玉県	30,399	49,283	118,518	45,378	243,578	23,286	51,124	66,072	51,598	36,515	14,983	243,578
12	千葉県	31,083	33,295	116,535	44,813	225,726	19,595	51,839	63,989	46,782	31,424	12,097	225,726
13	東京都	104,212	67,239	317,978	66,531	555,960	37,710	167,885	156,883	108,729	62,515	22,238	555,960
14	神奈川県	43,701	54,315	183,814	9,920	291,750	13,316	63,939	86,862	69,145	42,853	15,635	291,750
15	新潟県	15,993	15,206	50,707	12,387	94,293	8,256	23,386	24,573	20,258	14,441	3,379	94,293
16	富山県	7,422	3,851	21,876	8,380	41,529	2,722	8,988	12,284	9,347	6,399	1,789	41,529
17	石川県	8,864	4,093	28,949	6,307	48,213	3,019	10,931	13,857	10,857	7,475	2,074	48,213
18	福井県	5,605	2,196	20,763	4,622	33,186	1,574	6,594	8,649	8,495	6,209	1,665	33,186
19	山梨県	0	10,631	19,128	4,411	34,170	3,692	7,533	9,090	7,684	4,623	1,548	34,170
20	長野県	10,465	15,154	44,273	8,067	77,959	3,480	15,574	23,147	19,227	12,671	3,860	77,959
21	岐阜県	9,243	16,144	37,432	11,631	74,450	4,054	14,012	19,148	17,914	13,776	5,546	74,450
22	静岡県	21,622	20,042	76,309	22,766	140,739	9,392	29,254	40,529	33,282	21,838	6,444	140,739
23	愛知県	46,079	51,774	143,821	31,477	273,151	17,412	69,974	79,463	58,398	36,326	11,578	273,151
24	三重県	10,618	12,097	35,714	518	58,947	1,962	11,063	18,015	16,147	9,315	2,445	58,947
25	滋賀県	7,216	6,585	25,706	5,187	44,694	1,743	8,946	12,530	10,184	8,400	2,891	44,694
26	京都府	15,571	15,728	71,049	1,425	103,773	5,229	27,040	25,334	21,401	17,581	7,188	103,773
27	大阪府	59,765	49,240	238,686	30,719	378,410	15,570	80,094	107,765	87,714	60,072	27,195	378,410
28	兵庫県	26,611	26,392	122,573	15,999	191,575	8,981	39,239	53,339	44,423	33,691	11,902	191,575
29	奈良県	8,503	5,730	32,314	4,410	50,957	3,061	10,661	13,098	12,169	9,068	2,900	50,957
30	和歌山県	5,038	3,766	26,634	5,915	41,353	1,793	6,814	11,420	10,491	7,925	2,910	41,353
31	鳥取県	4,837	1,846	15,999	2,610	25,292	1,005	5,953	7,124	6,107	4,342	761	25,292
32	島根県	6,406	2,730	16,624	814	26,574	923	5,487	7,550	7,174	4,487	953	26,574
33	岡山県	12,941	9,199	53,351	6,209	81,700	4,170	17,996	22,179	18,729	13,831	4,795	81,700
34	広島県	28,193	10,771	73,046	7,834	119,844	5,754	26,370	34,237	27,999	19,127	6,357	119,844
35	山口県	7,434	6,875	41,671	5,373	61,353	2,549	11,672	16,995	14,494	12,137	3,506	61,353
36	徳島県	5,740	1,137	20,733	1,051	28,661	1,156	5,984	8,011	6,927	5,299	1,284	28,661
37	香川県	5,802	4,884	26,976	3,547	41,209	2,293	8,817	11,764	9,072	7,144	2,119	41,209
38	愛媛県	8,787	7,886	39,931	844	57,448	2,216	13,313	16,460	13,127	9,567	2,765	57,448
39	高知県	4,348	3,949	19,131	7,015	34,443	2,767	7,683	8,922	7,414	5,876	1,781	34,443
40	福岡県	27,892	23,736	134,518	1,048	187,194	9,129	43,049	49,616	39,547	32,649	13,204	187,194
41	佐賀県	5,592	5,883	22,749	325	34,549	1,659	7,460	9,654	8,188	6,185	1,403	34,549
42	長崎県	9,818	5,428	39,163	3,882	58,291	3,581	12,178	15,511	14,079	10,416	2,526	58,291
43	熊本県	13,691	8,528	56,472	1,874	80,565	4,238	18,804	20,532	19,119	14,165	3,707	80,565
44	大分県	7,010	5,778	29,274	4,671	46,733	2,766	9,831	12,780	10,972	7,986	2,398	46,733
45	宮崎県	6,941	6,100	29,933	499	43,473	1,823	9,138	11,799	10,555	8,151	2,007	43,473
46	鹿児島県	8,286	9,646	46,250	5,559	69,741	4,991	15,763	17,598	16,361	12,215	2,813	69,741
47	沖縄県	7,077	8,738	37,889	1,701	55,405	3,259	15,039	17,568	12,049	6,554	936	55,405
計		773,265	673,991	2,964,574	544,124	4,955,954	318,859	1,130,741	1,369,840	1,107,574	770,875	258,065	4,955,954

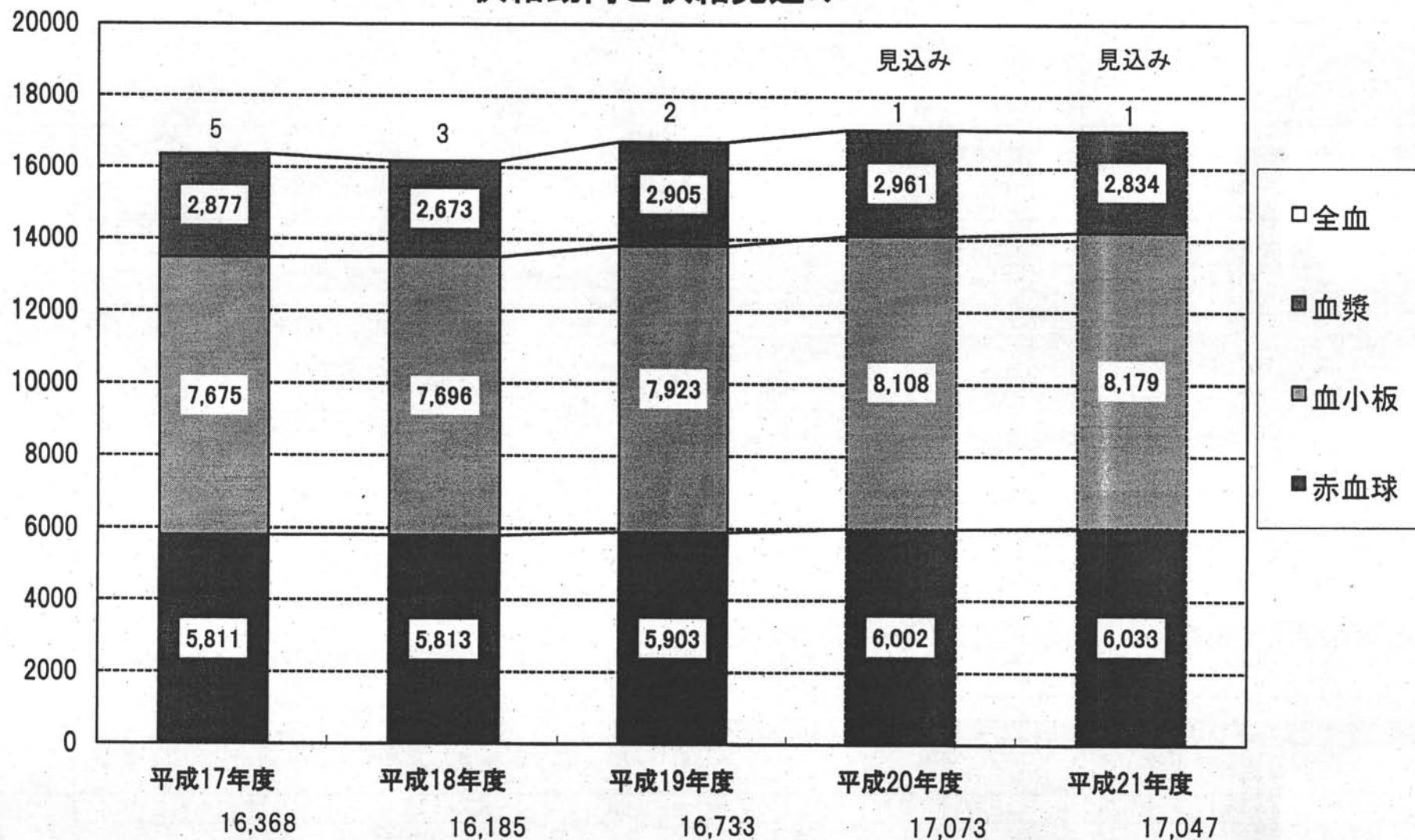
赤血球製剤(照射血含)					赤血球製剤(照射血含)					赤血球製剤(照射血含)							
センター名	血液型	適正在庫数	実在庫数	差	保有率	センター名	血液型	適正在庫数	実在庫数	差	保有率	センター名	血液型	適正在庫数	実在庫数	差	保有率
北海道	A	1,570	1,758	188	112%	富山	A	208	374	166	180%	滋賀	A	230	356	126	155%
	O	1,370	1,750	380	128%		O	156	292	136	187%		O	180	214	34	119%
	B	1,010	978	-32	97%		B	104	293	189	282%		B	120	201	81	168%
	AB	550	575	25	105%		AB	52	152	100	292%		AB	90	138	48	153%
	合計	4,500	5,061	561	112%		合計	520	1,111	591	214%		合計	620	909	289	147%
	ブロック計	4,500	5,061	561	112%		ブロック計	520	1,111	591	214%		ブロック計	620	909	289	147%
青森	A	240	281	41	117%	石川	A	245	492	247	201%	京都	A	570	739	169	130%
	O	230	248	18	108%		O	210	283	73	135%		O	450	591	141	131%
	B	160	183	23	114%		B	165	418	253	253%		B	325	533	208	164%
	AB	80	97	17	121%		AB	80	155	75	194%		AB	155	454	299	293%
	合計	710	809	99	114%		合計	700	1,348	648	193%		合計	1,500	2,317	817	154%
	ブロック計	710	809	99	114%		ブロック計	700	1,348	648	193%		ブロック計	1,500	2,317	817	154%
岩手	A	220	319	99	145%	福井	A	180	271	91	151%	大阪	A	1,710	2,385	675	139%
	O	220	324	104	147%		O	155	302	147	195%		O	1,350	1,818	468	135%
	B	150	133	-17	89%		B	105	110	5	105%		B	900	1,862	962	207%
	AB	70	97	27	139%		AB	60	64	4	107%		AB	540	1,006	466	186%
	合計	660	873	213	132%		合計	500	747	247	149%		合計	4,500	7,071	2,571	157%
	ブロック計	660	873	213	132%		ブロック計	500	747	247	149%		ブロック計	4,500	7,071	2,571	157%
宮城	A	500	714	214	143%	長野	A	340	372	32	109%	兵庫	A	950	1,113	163	117%
	O	430	481	51	112%		O	300	326	26	109%		O	750	868	118	116%
	B	290	361	71	124%		B	240	290	50	121%		B	500	591	91	118%
	AB	140	192	52	137%		AB	140	150	10	107%		AB	250	526	276	210%
	合計	1,360	1,748	388	129%		合計	1,020	1,138	118	112%		合計	2,450	3,098	648	126%
	ブロック計	1,360	1,748	388	129%		ブロック計	1,020	1,138	118	112%		ブロック計	2,450	3,098	648	126%
秋田	A	200	231	31	116%	岐阜	A	281	388	107	138%	奈良	A	257	358	101	139%
	O	200	205	5	103%		O	218	281	63	129%		O	200	235	35	118%
	B	130	110	-20	85%		B	145	190	45	131%		B	147	262	115	178%
	AB	80	84	4	105%		AB	76	90	14	118%		AB	82	128	46	156%
	合計	610	630	20	103%		合計	720	949	229	132%		合計	686	983	297	143%
	ブロック計	610	630	20	103%		ブロック計	720	949	229	132%		ブロック計	686	983	297	143%
山形	A	170	147	-23	86%	静岡	A	690	542	-148	79%	和歌山	A	190	224	34	118%
	O	140	148	8	106%		O	485	630	145	130%		O	170	189	19	111%
	B	100	104	4	104%		B	355	675	320	190%		B	110	223	113	203%
	AB	50	66	16	132%		AB	170	201	31	118%		AB	60	96	36	160%
	合計	460	465	5	101%		合計	1,700	2,048	348	120%		合計	530	732	202	138%
	ブロック計	460	465	5	101%		ブロック計	1,700	2,048	348	120%		ブロック計	530	732	202	138%
福島	A	430	409	-21	95%	愛知	A	1,192	1,348	156	113%	福岡	A	3,907	5,175	1,268	132%
	O	320	362	42	113%		O	936	1,282	346	137%		O	3,100	3,915	815	126%
	B	250	268	18	107%		B	684	1,362	678	199%		B	2,102	3,672	1,570	175%
	AB	120	179	59	149%		AB	314	518	204	165%		AB	1,177	2,348	1,171	199%
	合計	1,120	1,218	98	109%		合計	3,126	4,510	1,384	144%		ブロック計	10,286	15,110	4,824	147%
	ブロック計	1,120	1,218	98	109%		ブロック計	3,126	4,510	1,384	144%		ブロック計	10,286	15,110	4,824	147%
茨城	A	420	453	33	108%	三重	A	260	240	-20	92%	佐賀	A	1,120	2,337	1,217	209%
	O	380	406	26	107%		O	210	336	126	160%		O	840	1,188	348	141%
	B	270	372	102	138%		B	135	372	237	276%		B	522	1,612	1,090	309%
	AB	130	154	24	118%		AB	65	70	5	108%		AB	318	400	82	126%
	合計	1,200	1,385	185	115%		合計	670	1,018	348	152%		合計	2,800	5,537	2,737	198%
	ブロック計	1,200	1,385	185	115%		ブロック計	670	1,018	348	152%		ブロック計	2,800	5,537	2,737	198%
栃木	A	320	334	14	104%	鳥取	A	130	209	79	161%	長崎	A	230	293	63	127%
	O	260	376	116	145%		O	100	128	28	128%		O	160	205	45	128%
	B	180	240	60	133%		B	75	87	12	116%		B	130	143	13	110%
	AB	90	120	30	133%		AB	45	69	24	153%		AB	60	112	52	187%
	合計	850	1,070	220	126%		合計	350	493	143	141%		合計	580	753	173	130%
	ブロック計	850	1,070	220	126%		ブロック計	350	493	143	141%		ブロック計	580	753	173	130%
群馬	A	360	557	197	155%	島根	A	105	110	5	105%	熊本	A	446	512	66	115%
	O	290	428	138	148%		O	80	93	13	116%		O	320	404	84	126%
	B	220	340	120	155%		B	45	45	0	100%		B	221	243	22	110%
	AB	120	190	70	158%		AB	30	31	1	103%		AB	117	134	17	115%
	合計	990	1,515	525	153%		合計	260	279	19	107%		合計	1,104	1,293	189	117%
	ブロック計	990	1,515	525	153%		ブロック計	260	279	19	107%		ブロック計	1,104	1,293	189	117%
埼玉県	A	900	888	-12	99%	岡山	A	540	642	102	119%	大分	A	241	353	112	146%
	O	700	882	182	126%		O	400	627	227	157%		O	178	260	82	146%
	B	500	1,020	520	204%		B	280	447	167	160%		B	120	176	56	147%
	AB	300	428	128	143%		AB	150	182	32	121%		AB	66	115	49	174%
	合計	2,400	3,218	818	134%		合計	1,370	1,898	528	139%		合計	605	904	299	149%
	ブロック計	2,400	3,218	818	134%		ブロック計	1,370	1,898	528	139%		ブロック計	605	904	299	149%
千葉県	A	860	922	62	107%	広島	A	560	737	177	132%	宮崎	A	200	292	92	146%
	O	770	880	110	114%		O	410	703	293	171%		O	150	206	56	137%
	B	530	725	195	137%		B	300	616	316	205%		B	100	108	8	108%
	AB	240	198	-42	83%		AB	150	207	57	138%		AB	50	76	26	152%
	合計	2,400	2,725	325	114%		合計	1,420	2,263	843	159%		合計	500	682	182	136%
	ブロック計	2,400	2,725	325	114%		ブロック計	1,420	2,263	843	159%		ブロック計	500	682	182	136%
東京都	A	2,270	4,648	2,378	205%	山口	A	140	269	129	192%	鹿児島	A	240	376	136	157%
	O	1,920	3,889	1,969	203%		O	120	189	69	158%		O	180	257	77	143%
	B	1,260	2,703	1,443	215%		B	100	313	213	313%		B	120	183	63	153%
	AB	750	1,320	570	176%		AB	60	114	54	190%		AB	60	73	13	122%
	合計	6,200	12,560	6,360	203%		合計	420	885	465	211%		合計	600	889	289	148%
	ブロック計	6,200	12,560	6,360	203%		ブロック計	420	885	465	211%		ブロック計	600	889	289	148%
神奈川県	A	1,180	1,547	367	131%	徳島	A	170	298	128	175%	沖縄	A	260	364	104	140%
	O	1,000	987	-13	99%		O	120	115	-5	96%		O	230	315	85	137%
	B	700	1,041	341	149%		B	80	109	29	136%		B	140	270	130	193%
	AB	320	394	74	123%		AB	50	79	29	158%		AB	70	100	30	143%
	合計	3,200	3,969	769	124%		合計	420	601	181	143%		合計	700	1,049	349	150%
	ブロック計	3,200	3,969	769	124%		ブロック計	420	601	181	143%		ブロック計	700	1,049	349	150%
新潟	A	391	621	230	159%	香川	A	220	274	54	125%	全国	A	2,867	4,645	1,778	162%
	O	345	505	160	146%		O	155	260	105	168%		O	2,158	2,931	773	136%
	B	265	341	76	129%		B	115	142	27	123%		B	1,423	2,805	1,382	197%
	AB	149	212	63	142%		AB	60	61	1	102%		AB	791	1,062	271	134%
	合計	1,150	1,679	529	148%		合計	550	737	187	134%		ブロック計	7,239	11,443	4,204	158%
	ブロック計	1,150	1,679	529	148%		ブロック計	550	737	187	134%		ブロック計	7,239	11,443	4,204	158%
山梨	A	120	176	56	147%	愛媛	A	210	316	106	150%	全国血液型別	A	22,586	30,906	8,320	137%
	O	90	95	5	106%		O	160	196	36	123%		O	18,278	25,091	6,813	137%
	B	60	106	46	177%		B	110	158	48	144%		B	12,728	21,261	8,533	167%
	AB	30	61	31	203%												

全国の赤血球の在庫状況(平成20年度)

2009/3/6 金	RCCLR+照射RCCLR (換算数)						上段: RCCLR1 中段: RCCLR2 下段: RCCLR (換算数)					上段: IR-RCCLR1 中段: IR-RCCLR2 下段: 照射RCCLR(換算数)					
ブロック名	上段: 適正在庫		中段: 実在庫 下段: 過不足数・対過不足率				過不足率										
	A	O	B	AB	計	A		O	B	AB	計	A	O	B	AB	計	
北海道ブロック	1,570	1,370	1,010	550	4,500	112%	16	18	10	8	52	152	132	90	71	445	
	1,758	1,750	978	575	5,061		124	100	51	24	299	671	700	388	224	1,983	
4,500	188	380	-32	25	561												
	112%	128%	97%	105%	**												
宮 城ブロック	1,760	1,540	1,080	540	4,920	117%	4	4	3	1	12	225	214	172	82	693	
	2,101	1,768	1,159	715	5,743		18	21	26	6	71	918	754	466	310	2,448	
4,920	341	228	79	175	823												
	119%	115%	107%	132%	**												
東 京ブロック	6,821	5,755	3,985	2,129	18,690	153%	233	204	181	70	688	689	640	461	219	2,009	
	10,146	8,448	6,888	3,077	28,559		1,601	1,426	1,015	481	4,523	3,011	2,376	2,108	913	8,408	
18,690	3,325	2,693	2,903	948	9,869												
	149%	147%	173%	145%	**												
愛 知ブロック	3,396	2,670	1,933	957	8,956	144%	31	30	28	17	106	326	246	260	79	911	
	4,027	3,732	3,710	1,400	12,869		479	455	419	162	1,515	1,356	1,273	1,292	490	4,411	
8,956	631	1,062	1,777	443	3,913												
	119%	140%	192%	146%	**												
大 阪ブロック	3,907	3,100	2,102	1,177	10,286	147%	22	17	19	11	69	199	156	117	79	551	
	5,175	3,915	3,672	2,348	15,110		193	267	248	120	828	2,284	1,604	1,520	1,009	6,417	
10,286	1,268	815	1,570	1,171	4,824												
	132%	126%	175%	199%	**												
岡 山ブロック	2,265	1,685	1,195	655	5,800	148%	6	6	6	4	22	148	109	149	63	469	
	3,054	2,547	2,049	957	8,607		72	103	60	25	260	1,378	1,113	887	420	3,798	
5,800	789	862	854	302	2,807												
	135%	151%	171%	146%	**												
福 岡ブロック	2,867	2,158	1,423	791	7,239	158%	7	6	7	3	23	62	65	50	33	210	
	4,645	2,931	2,805	1,062	11,443		149	106	88	61	404	2,139	1,324	1,286	452	5,201	
7,239	1,778	773	1,382	271	4,204												
	162%	136%	197%	134%	**												
合 計	22,586	18,278	12,728	6,799	60,391	145%	319	285	254	114	972	1,801	1,562	1,299	626	5,288	
	30,906	25,091	21,261	10,134	87,392		2,636	2,478	1,907	879	7,900	11,757	9,144	7,947	3,818	32,666	
60,391	8,320	6,813	8,533	3,335	27,001												
	137%	137%	167%	149%	**												

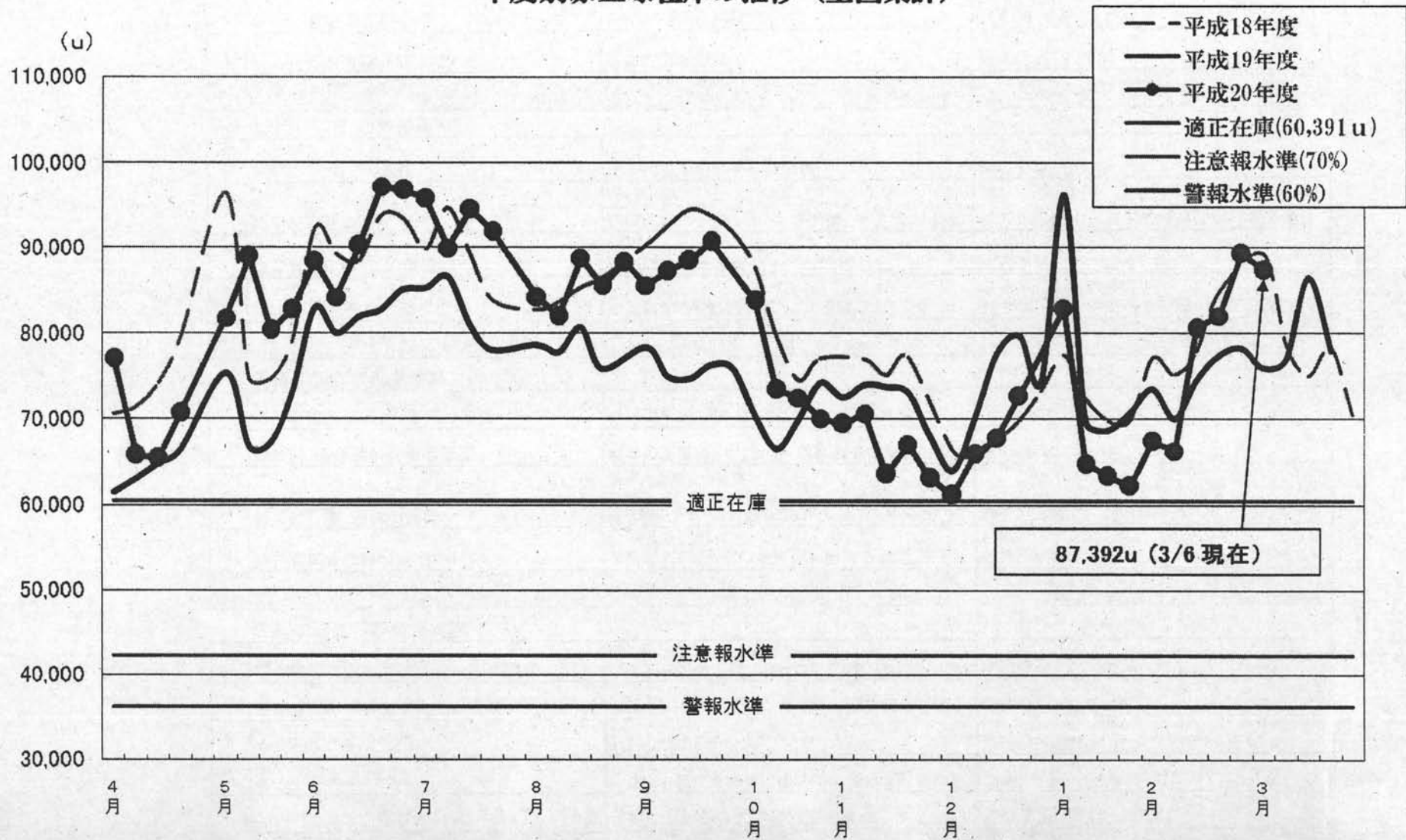
(千単位)

供給動向と供給見込み



※全血製剤の供給は少量のため、グラフ上に表示されません。

年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

北海道赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ティーンズドナー献血キャンペーン	全道の中学生から20代の若年層	協力者数 2,500名以上
2	サタデー・テーリング	小学生、特に高学年に献血の重要性を啓蒙する	期間 4月～9月まで 参加者2,500名以上
3	サマー献血キャンペーン	10～20代を中心とした若者	全道、5ヶ所で開催 800名以上
4	施設見学や総合的な学習等の受入	学生(小・中・高・短大・大学) 幅広く啓蒙を図る	参加者 600名 以上
5	血小板成分献血協力団体への研修会	大学サークルを主として団体献血(複数人数献血者)の継続的な協力体制を構築する	協力者数 3,000名 以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血事業所の開拓・確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓蒙活動	現在、事業所が減少している状況ではあるが目標 15～20社
2	待機型企業・団体の確保	規模縮小の為、献血協力できなくなった企業・団体。駐車スペース、他の状況で献血できない事業所。年一回実施事業所への要請。	動員協力団体 100社
3	事業所・団体等の研修会実施	献血の重要性と400mL・成分献血の啓蒙、強化	道内各センター 200社
4	成分献血協力団体・企業の啓蒙	待機型企業・団体及び少人数の企業・団体	現状 40社 目標 50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキ・電話要請の強化	前回採血から期間があいている献血者	400mL・血小板成分献血者 応諾者数(実協力者数)3,000名以上
2	複数回献血クラブの運営	複数回献血者会員へメールによる啓蒙	年度会員 3,000名
3	献血処遇品の変更	献血者のニーズに合わせた処遇・一年間で2回の品物変更	新たに1,500名以上の複数回献血者を確保
4	献血フォーラムの実施	複数回献血者会員への啓蒙	参加動員 300名

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全道目標 84.5%
2	ハガキ・電話の依頼	400mL献血可能な方	400mL可能 応諾者数(実協力者数)2,500名以上
3	実施企業・団体の年間回数、実施時期等の精査	年2～3回以上実施企業・団体	400mLの採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	推進キャンペーンの実施	献血実施企業・団体・学生	各イベント(ティーンズドナー 2,500名・サマー献血800名)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

青森県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血者確保(若年者層拡大キャンペーン)	16~29歳の献血可能者及び新規献血者	21,000人以上
2	新聞折込みチラシによる新規及び献血者の確保	全国キャンペーン時、たとえば、はたちの献血キャンペーンなどの期間は、若年者を対象	30万世帯に配布し、応諾率1.2%で3,600人
3	セミナー開催	大学生	10回以上開催、参加100名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	20社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者)1,100人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者)3,000人以上
3	チラシによる会員の募集	ルーム・バスに来た方	会員総数3,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる依頼	400mL献血可能者	(上記③に含まれる)
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③に含まれる)

⑤その他の具体的対策(①~④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の成分献血予約	成分献血者	3施設/3人/日为目标 年間 2,800人
2	クラブ以外のメールアドレス取得	全献血者	3施設/3人/日为目标 年間 2,800人
3	電話による献血依頼	全献血者	成分献血者1,300人以上
4	ルームの献血者確保	全献血者	現状より増やす。(全血 1日20名)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岩手県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校生への普及啓発	高校生(主に高校3年生)	協力者数2,900人以上
2	大学・専門学校での献血実施	短大・大学・専門学校	協力者数4,200人以上
3	親と子の血液センター見学会	小学生と保護者	参加者数320人以上
4	セミナー開催	高校生・短大生・大学生・専門学校生	2回以上開催、参加者数200人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	30社新規企業開拓
2	年2回以上の協力依頼	年1回の献血団体	10会場

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員(パソコン、携帯)	応諾者数(実協力者数)100人以上
2	ハガキによる献血要請	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	封書による献血要請	登録者(複数回献血クラブ会員を含む)	応諾者数(実協力者数)1,500人以上
4	封書による献血要請	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)1,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	20,000人に依頼
2	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	40校

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

宮城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	専門学校献血会場の開拓	専門学校生	2校 延献血者数100名
2	実績の高い大学、専門校への配車を増やす	大学生、専門校生	3回 延献血者数150名
3	はがきによる献血のお礼状送付	16～29歳の初回献血者	再来者200人以上
4	はがきによる400mL献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	再来者150人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の開拓	献血未実施企業、及び献血実施企業の周辺企業等	30団体新規登録
2	休眠献血団体への働きかけ	休眠団体	3団体再登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,500人以上
2	封書による複数回会員登録依頼	献血依頼対象者	会員登録者数 6,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者(献血ルーム来場者)	献血応諾率10%以上
2	地域住民へのはがきによる献血依頼	献血実施地域の400mL献血可能者(移動採血)	献血応諾率10%以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	定点献血実施場所の追加	大型ショッピングセンター等	1ヶ所増、年間献血者数見込み600名
2	はがきによる会員登録の案内	献血依頼対象者	総会員登録者数 6,000人以上
3	メールによる成分献血予約の案内	複数回献血クラブ会員	成分献血予約 1,000人以上

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

秋田県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	講演会(またはセミナー)の開催	高校生、JRC	高校にての講演 6校以上
2	はがきによる献血依頼	若年層への依頼	
3	献血キャンペーンの実施	秋田県学生献血推進協議会主催の献血	2回以上の献血キャンペーン
4	高校生に対する感謝状の贈呈	高校生在学中3年間に献血5回以上へ(H19.約160名)	
5	情報誌の発行と配布	講演会のおり配布	講演などでの配布
6	若年層向けリーフレットの配布	講演会のおり配布	講演などでの配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	
2	緊急要請可能な特機団体の確保	規模縮小等により献血実施できなくなった企業・団体	協力団体を新規6団体以上
3	成分献血協力団体の確保	既献血団体及び小人数の企業・団体	
4	講演会の開催	献血協力企業において	年間6企業以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	メール会員への広報・献血依頼	メール会員の献血協力(年間 800人)
2	ハガキによる献血要請	年1回の献血者への依頼	年2回の依頼 (500人)
3	新規メール会員の募集	献血者への案内	新規会員 (120人)
4	情報誌の発行と配布	協賛事業所へ	講演会にて配布
5	リーフレット配布	協賛事業所へ	講演会にて配布
6	講演会	献血協力団体(LC等)	年間10団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	固定施設を対象とした電話等による献血依頼	400mL献血者への献血依頼	400mL献血者を固定で5,000人以上確保
2	地域献血実施体制の充実	各保健所での400mL限定献血	県内8保健所で8回以上開催

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話ハガキの依頼強化	県主催のふれあい献血の強化	電話・ハガキの依頼数 40,000件
2	成分献血キャンペーン	成分献血者限定キャンペーン	新規登録者の開拓 (1,500人)
3	平日の成分献血者確保	成分献血者限定キャンペーン	上記内容にて

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

山形県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	葉書による献血依頼	18～29歳(若年者層)の400mL献血可能者	献血応諾者数1,000人以上
2	高校献血の実施	高校生	
3	学生ボランティアの活用	大学生・専門学校生	学生ボランティアサークルを2団体増やす
4	出前講座の実施	県内の小中学生	JRC加盟校を中心に10校以上の実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規団体の勧誘	献血未実施事業所・団体	消滅団体を考慮し、新規団体を10以上勧誘
2	献血サポーターの勧誘	献血実施事業所・団体	登録サポーターを20団体増やす

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	14,400通配信予定(月1,200通配信目標)
2	はがきによる献血依頼	企業献血実施者へ街頭献血の案内	12,000通送付予定(月1,000通配信目標)
3	定点献血等の増加	大型スーパー2店舗(年間延べ12回)・団体1(年間延べ6回)	延べ18箇所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血可能者	12,000通送付予定(月1,000通配信目標)
2	高校献血における400mL献血の受入	400mL献血可能な高校生	400mL献血応諾高校を全体の50%以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の予約推進	成分献血者	1～2人/日を目標に年間500人
2	電話による成分献血依頼	成分献血者	5人/日を目標に年間1,820人
3	封書及び葉書による成分献血依頼	成分献血者	700人/月を目標に年間8,400人
4	定期的なキャンペーンの実施	全献血者	年6回程度
5	各事業所等の献血ルームへの送迎	成分献血者	5人/日を目標に年間1,200人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

福島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ヤング献血21キャンペーン	高校、大学、専門学校生	1回開催参加者50人以上
2	若年者献血セミナー開催	高校、大学、専門学校生	10回開催参加者300以上
3	青少年献血ふれあい事業開催	小、中、高校生	年3回以上実施100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血協力事業所の見直しを効率化を図る	20社とする。
2	新規献血協力団体の確保	関係機関と連携し、新規開拓を図る	1団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる協力要請	複数回献血クラブ会員	応諾数1000人以上
2	ハガキによる要請	前回400mL献血経験者	応諾数1000人以上
3	会員募集用リーフレットの作成	400mL献血者と成分献血者	60000枚配布予定

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血啓発資料の提供(400mL献血キャンペーンの実施)	400mL献血者	献血減少期に安定在庫を図る
2	ハガキによる400mL献血要請(主に街頭献血実施時に発送)	400mL献血者	応諾率を向上させる
3	献血実施場所の見直し	100社程度	大規模事業所を訪問後、効率良い採血に努める。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	登録成分要請ダイレクトMの発送	成分献血未経験者で可能者	固定施設で500人確保する
2	定期的な成分献血者の確保(献血ポイント制の充実)	新規を含む成分献血者	固定施設で年間500人を定期化を依頼する
3	原料血漿確保のための成分献血確保	55歳以上の成分献血経験者	固定施設で200以上とする

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

茨城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー等の開催	高校・短大・大学生	3回～5回実施
2	若年層キャンペーンの実施	高校・短大・大学生	2回～3回実施 参加者500名 献血者150名
3	夏休み親子教室	小学生	3日～5日実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規事業所の開拓	1回/30名以上の協力を得られる新規事業所	10～20社
2	休眠状態の事業所の実施	実施しなくなった事業所の見直し	10～20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブの登録者	応諾者数 1,200人
2	ハガキによる献血依頼	献血可能者	応諾率 20%
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1～2回実施の事業所	5～10ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付及び検査時の400mL推進の強化	400mL可能者で200mL希望者	月/200名
2	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能者	上記、複数回献血者確保対策に含む
3	高校献血の見直し	休眠状態の事業所と組み合わせる	10ヶ所

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	各献血ルームでの電話及びハガキによる依頼実施	成分献血者	応諾者数 600人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

栃木県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血の実施	16～18歳の高校生	協力者8,000人以上
2	大学・短大・専門学校等献血の実施	18～22歳の学生	協力者8,000人以上
3	青少年等献血ふれあい事業・若年者献血セミナーの開催	小中高生から30代未満の若年者	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	10社
2	休眠団体への働きかけ	規模縮小等により献血実施できなかった企業・団体	20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキ・メールによる献血依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる。
2	400mL献血推進キャンペーン	400mL献血可能者	全血400比76.0%
3	高校献血における400mL推進	400mL献血可能者	高校生における400mL比率増加

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の平日成分予約推進	成分献血者	平日2人増を目標に年間750人増加
2	平日の午前中の成分献血者確保	成分献血者	平日の午前中に2人増加を目標に年間750人増加

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

群馬県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナーの開催	専門校・大学生	4回開催 参加500名
2	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数10,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	目標20社
2	成分献血協力団体の拡大	小人数の企業・団体	目標20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	過去1年間の未献血者	応諾者数12,000人以上
2	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数2,000人以上
3	リラクゼーションの実施(健康相談)	メール会員	2月16日～3月13日までの平日で実施。 平均45人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血のみ会場の実施	街頭献血会場	月6会場以上
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策にふくまれる
3	高校献血における400mL献血受け入れ	400mL献血可能者	10校以上

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

埼玉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	出前講座	小学生、中学生、高校生、その他学生	25回開催 参加者6,000人
2	親子ふれあい献血キャンペーン	幼児、児童及び両親	イベント参加者500人、献血者270人
3	彩の国献血フォーラム	若年層	参加者500人
4	卒業献血キャンペーン	高校3年生	献血者500人
5	県・市町村・血液センター3者の高校訪問	献血未実施校	高校生献血14,000人
6	クリスマス献血キャンペーン	若年層	献血者260人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	県・市町村・血液センター3者の新規献血協力団体の開拓	献血未実施企業及び団体	30団体
2	献血ルームへの献血協力団体の開拓	移動採血車による献血実施ができない企業及び団体	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	会員数13,500人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者20,000人以上
3	県・市町村・血液センター3者の企業訪問	年一回実施の企業及び団体	10団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進用資材の制作	全血献血希望者全員に配布	400mL献血の基準を満たしている方の95%以上を400mL献血でいただく
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	平日の成分献血の予約推進	血小板成分献血者	平日平均予約人数 25人
2	電話による献血依頼 (水曜日と木曜日の予約率の向上)	既血小板成分献血者	平日平均予約人数 30人
3	メールによる緊急依頼	既血小板成分献血者	応諾率20%

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

千葉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	高校・短大・大学	3回開催 参加2000人
2	小学生(保護者同伴)対象のセンター施設見学及び献血勉強会	小学生(保護者)	年1回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体の確保	献血未実施および献血協力企業、会場周辺企業など	新規協力企業・団体の確保及び、修正により360社
2	臨時献血要請可能な企業等	通常献血に加え臨時に献血依頼、企業等	献血要請可能な企業等10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数 延べ 800人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数 延べ 22,000人
3	メールによる情報配信	複数回献血クラブ	年4回以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成(400mL献血のお願いです)	全血献血希望者	全血献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数、実施時期などを精査	年3回以上の実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程を策定する
4	高校献血における400mL献血受入	400mL受入実施校数38校	400mL受入実施校数を40校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	血小板成分献血者(緊急時を中心に)	1ヶ月平均120人を目標に年間1,400人を確保する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

東京都赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ラクロス献血協力者に対する複数回依頼	短大・大学生	600人対象
2	施設見学の実施	大学・専門学校生	10校実施を目標
3	大学・短大献血の増回・増班	大学・短期大学生	大学献血の稼働日数を延べ30日増加
4	放送番組とのタイアップ	16歳以上の学生	10番組
5	グループ献血、ペア献血キャンペーン	16歳以上の学生	約20,000人
6	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数20,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血未実施団体	50団体
2	新規協力企業の確保	献血会場周辺の新規協力企業	50団体
3	掘起し・増回企業・団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血中断・年1回実施の企業・団体	50団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	冬季献血サポーターキャンペーン	上半期に400ml献血した献血者の再来を勧奨する。	400ml献血再来者11,000名
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ(携帯メールクラブ)会員	応諾者数(実協力者数)20,000人以上
3	はがきによる献血依頼(全血・成分)	前回献血ルームでの献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)38,000人以上
4	はがきによる献血依頼(渉外支援)	前回同移動採血会場に来所した献血者への依頼	応諾者数(実協力者数)40,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血説明会の実施	協力企業・地域・学域等	随時
2	400ml献血推進パンフレットの活用	協力企業・地域・学域等	随時

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	成分献血予約推進	成分献血者	成分献血の35%以上を予約で確保する。約65,000人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

神奈川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	横浜開港150周年記念イベントに合わせ横浜F・マリノス、横浜ベイスターズとコラボレーションした献血推進	高校生・大学生	横浜開港150周年記念イベント期間中
2	サッカーチーム横浜F・マリノス、野球チーム横浜ベイスターズ・チアリーダーの参加等、球団と連携し献血PR活動の実施(横浜ベイスターズ公式試合球、サイン色紙、横浜F・マリノス人気グッズ等の提供を受け記念品として活用、横浜ベイスターズファン感謝デーでは球場内で献血実施)	高校生・大学生	各チーム試合開催日、ファン感謝デー等イベント開催時に配車、各球団別にチームエンブレムで装飾した天幕を製作し献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。
3	小中学生親子教室	小学生親子、中学生親子	夏休み期間
4	ボラフェスタ	大学生(ボランティアクラブ・サークル)・社会貢献団体・プロ野球、サッカーチーム	1回開催、参加大学校8校
5	若年者セミナー開催	高校生・大学生	3回研修開催
6	大学献血	大学生	
7	メディアを活用した患者様からのメッセージ放送	高校生・大学生・その他	
8	サッカー教室(横浜F・マリノス協力で児童が練習中に保護者対象の献血実施)	幼児・小学生親子	
9	献血の絵ポスター展	小学生・中学生	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業	献血未実施および献血会場周辺企業	50社新規登録
2	新規企業の複数回献血へのアプローチ	新規献血協力企業・団体の参加を求める	企業・団体総数を670社に

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	新規全血(400mL)登録者	年間応募予定 3,000人以上
2	街頭献血によるハガキ依頼	全血献血(400mL)登録者	42,000人の依頼に対し年間応募予定 5,000人以上
3	企業献血によるハガキ依頼	全血献血(400mL)登録者	45,000人の依頼に対し年間応募予定 16,000人以上
4	電話による依頼	全血献血(400mL)登録者	4,000人の依頼に対し年間応募予定 800人以上
5	献血メールクラブの活用	全血献血(400mL)登録者のメールクラブ員	10,000人の依頼に対し年間応募予定 1,000人以上
6	原料血漿確保キャンペーン「3回連続献血、ホップ・ステップ・ジャンプ」	成分献血可能者(16,700人)	年間に3回実施、各回30,000人の依頼、年間応募予定 9,000人以上
7	全血献血者の成分献血者に移行を目的とした献血再来カードの発行	全血献血を主体としている、神奈川県運転免許試験場内設置の献血ルームでの400mL献血者を成分献血者	年間献血目標の23,000人に依頼

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進キャンペーンの実施	400mL献血可能者	4回実施
2	実施場所(企業・団体)年間回数、実施時期等の精査	年間3回以上の実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
3	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能な献血登録者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる
4	受付時400mL献血推進用資材の製作	全血献血希望者	全献血会場に設置

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成21年度目標(数値)
1	成分献血キャンペーン ハガキ依頼(血小板及び原形血漿の確保)	成分献血登録者	年間 80,000人の依頼 20,000人の確保
2	年末年始対策ハガキ依頼(12/25～1/4)	成分献血登録者	5,000人の依頼 1,250人の確保
3	平日の成分献血者確保対策(ウィークデーカード)	成分献血者	平日の平均受入人数を5人程度の増加
4	血小板型別不足による平日献血依頼	成分献血登録者	随時対応
5	横浜駅東西献血ルーム推進キャンペーン	成分献血者	

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校での卒業献血の実施	高校生	5校
2	講演会開催	専門学校生、大学生、高校生	10校
3	献血セミナー、献血ルーム見学会の開催	専門学校生、大学生、小中高校生	10校
4	学生ボランティアの組織化	専門学校生、大学生、高校生	5校
5	若年層向けリーフレットの作成	若年層	60,000枚

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所、団体の開拓	県内の事業所、団体	30社
2	年2回以上実施する協力事業所の確保	"	10社
3	献血協力に関する企業アンケートの実施	"	アンケート結果を踏まえ、事業所訪問
4	新聞への献血実施お礼広告の掲載	協力事業所・団体	6月に掲載

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	会員 3,000人以上
2	はがきによる献血要請	前回の献血から一定期間未献血者	応諾者数5,000人以上
3	献血バス会場献血者の献血ルームへの誘導	年1回実施の献血バス会場の献血者	誘導者数300人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	400mL献血可能者	応諾者数5,000人以上
2	実施場所(事業所・団体)の年間回数、実施時期等の精査	年2回以上の実施場所	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
3	400mL推進パンフレットの作成	一般献血者	5,000枚作成
4	400mL率の高い協力事業所での年2回実施依頼	協力事業所	10ヶ所

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新聞に献血情報掲載	新潟日報(地方紙)の社会面に献血情報掲載	毎週土曜日52回掲載
2	ラジオとタイアップした献血推進キャンペーン	県内民放ラジオ局	献血の普及啓発、新規献血者の獲得
3	献血PRイベントの実施	県内民放ラジオ局の公開録音実施	献血の普及啓発、新規献血者の獲得
4	献血ルームにおける血液不足時期のキャンペーン実施	県内3か所の献血ルーム	血液不足時期の献血者確保
5	協力団体への献血要請(冬季)	協力団体に献血協力カードを配布	応諾者 300名以上

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

富山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	年間献血協力者数15,000人
2	献血セミナーの開催	短大生、専門学校生、大学生	年間5回実施(200名程参加)
3	若年層への献血啓発	小学生、中学生等	年間500名程度参加
4	学生献血ボランティアと連携したイベントの実施 (サマー献血、クリスマス献血)	18～22歳の若者	500名の献血協力者を確保
5	大学献血での「いっしょに献血」キャンペーンの実施	大学生	200名の献血協力者を確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力団体、休眠団体の拡大	献血未実施及び献血会場周辺企業	新規団体を10社300名の献血者を確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員の募集	400mL献血、血小板献血可能者	会員数を1,200人
2	年間2回献血協力事業所の拡大	年1回の献血協力事業所	10団体増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	200mL献血の受付制限	街頭献血会場	全ての街頭献血会場にて実施
2	高等学校内の献血は3年生対象に実施	各高等学校の3年生	10校にて実施
3	献血協力事業所における200mL献血抑制	献血協力事業所	全ての献血会場にて実施

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	血小板献血予約者の確保	血小板献血可能者	3人/日为目标に年間1,000人を確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

石川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ポスターの募集	中学生	20校200点
2	献血セミナー開催	大学生	50人
3	学園祭での普及啓発	大学・短大・専門学校	5校
4	センター見学会の実施	小学生(保護者)	4回開催、参加200人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協賛企業・団体の確保	未実施企業・団体	10～15社新規に確保
2	不足時に依頼可能な企業・団体の確保	緊急に要請可能な企業・団体	10社・団体を確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	未登録の献血者	1,000人募集
2	メールによる献血要請	メールクラブの会員	応諾者数100人以上
3	ハガキによる献血依頼	年1回の献血者	応諾者数500人以上
4	複数回実施の依頼	年1回の企業・団体	10社・団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能者	500人確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

福井県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	短大・大学:学内献血の増加 いっしょに献血キャンペーン	学生、教員	短大、専門学校年間1回以上 大学年間2回～4回
2	学生献血推進連盟との連携強化	学生	キャンペーン実施(年間5回)
3	血液センター見学	小学生以上、関係者	年間10回程度
4	若年層献血推進用パンフ、ポスターの作成	小中学生、関係者	ポスター:県内全小中学校へ配布

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体の開拓	献血未実施、休眠中および会場周辺企業団体	5社(団体)
2	緊急要請可能企業、団体の開拓	血液センター周辺企業団体	5社(団体)
3	ライオンズC、ロータリーCとの連携強化	県内全LC(28) RC:新規開拓	LC:28団体 RC:3団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	キャンペーン実施(新規課員募包含む)	クラブ会員、献血者	イベント企画(年間2回)、新規課員500人
2	メール・ハガキ依頼の活用	クラブ会員、献血者	メール:年間20回・1,500人へ依頼 ハガキ:年間応諾率30%(20年度実績25.8%)
3	初回献血者:サンクスキャンペーン (お礼状や血液の現状等のお知らせ)	年間初回献血者(約3,000人)	初回献血者の50%を複数回協力者へ
4	400mL献血リピートキャンペーン	400mL献血者	年2回以上:400mL献血者の40%

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血受付のみ計画の増加	ライオンズC主催の地域献血計画	年間40回程度
2	400mL献血推進用啓発資料の活用	献血者、推進協力・団体	全移動採血計画
3	400mL献血リピートキャンペーン	400mL献血者	年2回以上:400mL献血者の40%

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	母体限定キャンペーン実施	献血者	1日平均35人以上
2	冬期限定テレビCMの活用(1月～2月)	県民	冬期献血者確保対策(型別、場所告知など)
3	市町村職員送迎:血小板成分献血	市町村職員	年間30回(1回当り5～6人)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

山梨県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血の全校実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	短大・大学献血の実施	400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
3	セミナー開催	高校・短大・大学生	3回開催 参加200人
4	若年献血者用パンフレットの作成	県内全中学校の卒業式で10,000人に配付	協力者数1,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血会場周辺企業	10社増加
2	年1回の献血団体を年2回実施	年1回実施企業・団体	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	実協力者数200人以上
2	はがきによる献血依頼	一定期間未献血者及び前回献血者	実協力者数2,500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血における学年規制	高校3年生を中心に実施	400mL献血者1,000人以上
2	大学献血における400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者1,200人以上
3	献血ルームにおける400mL献血の推進	200mL献血者(お断りの説明)	400mL献血者3,000人以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ルーム案内チラシの作成	甲府市内の移動での献血者及び大学・短大で10,000人に配付	献血ルームの成分献血者300名増
2	はがきによる依頼	一定期間未献血者	献血ルームの成分献血者500名増
3	ライオンズクラブによる献血協力	県内34ライオンズクラブから各クラブ3名以上の成分献血者をルームへ動員していただく。	献血ルームの成分献血者100名増
4	献血ルームの献血者確保 (ポイントキャンペーンの実施)	全献血者	平日の平均受入数30人を33人まで増やす。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

長野県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血キャンペーンの実施	若年層を狙った街頭献血の実施	学生ボランティアによる街頭啓発活動10・20代構成比を30%
2	新成人への献血パンフレット配布	成人式を迎える方	市町村成人式で配布する。
3	学生の送迎	高校生、短大生	200名の送迎

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力企業の確保	新規企業に訪問し献血の依頼を行う。	新規10社
2	休止企業の協力依頼	3年以上休止している企業を訪問し実施する。	10社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	献血協力者1,000人以上
2	ハガキによる献血依頼	過去の献血者	献血協力者2,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進パンフレット配布による啓発	移動採血車による献血者	400mL可能献血者の400mL献血率を95%にする
2	高校献血の400mL献血推進	校内献血高校生	400mL献血率35%

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	固定施設献血者の増加	企業、短大、専門学校	送迎により500名の献血者確保
2	午前中の血小板献血者の確保	官公庁職員	200名の献血者確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岐阜県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	中学生への献血思想の普及啓発	県下全中学校	200校
2	高等学校への献血思想の普及啓発	県下全高等学校	79校
3	大学・短大・専門学校への普及啓発献血実施	大学・短大・専門学校	各校献血者数 50名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血協力者が30名を望める企業・団体	数社
2	献血実施会場への送迎協力	献血実施会場周辺企業・団体	1稼動平均献血者増

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	年間献血回数が1回の400mL献血者	応諾者数(実協力者数)1,500人以上
2	事業所(企業・団体)	年間1回実施で大口協力事業所	数ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	渉外時での400mL献血の推進	事業所・団体の献血担当者	前回実績の1割増し
2	献血受付時での400mL献血の推進	400mL献血基準を満たしている献血者	基準を満たした方全員の快諾

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	職専免	県・市町村職員	月2回の依頼
2	電話による依頼	該当者	必要人数
3	はがきによる依頼	誕生日月等 献血間隔に応じて	月 3, 500人
4	学生の献血者送迎	大学生・専門学校生	10校

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

静岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	小・中・高生対象の献血勉強会	小学生・中学生・高校生	3回以上の開催で参加者100名以上
2	JRCメンバーへの献血勉強会	小学生・中学生・高校生	4回以上の開催で参加者350名以上
3	学生ボランティア活動の充実	高校生・大学生・専門学校生	定例会の開催および献血主催で延べ参加者300名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体・献血推進団体の確保	献血会場周辺企業・新規開設事業所・献血未実施ライオンズクラブ	新規献血団体・献血推進団体を72団体確保する。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ員	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
2	はがきによる献血依頼	献血依頼可能者(前回400ml実施者のみ)	応諾者数(実協力者数)2,000人以上
3	献血団体、献血推進団体の年間実施回数の増加	年1回実施の献血団体、献血推進団体	36団体以上の献血実施回数の増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	前回400ml献血実施者	前回400ml献血実施者
2	400ml限定採血実施(在庫状況による)	移動採血車	移動採血車
3	学年限定の高校献血実施(学校の了解前提)	校内献血時3年生のみ実施	校内献血時3年生のみ実施

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血中、献血後の登録依頼強化	成分献血実施者のうちの未登録者	新たな成分献血登録者を500名以上増加させる。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

愛知県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	中部学生リーダー研修会の実施	短大・大学生	2回以上の研修会を実施 参加人数100人以上
2	学生献血連盟によるキャンペーン実施	18歳～22歳の若年者	年2回以上の実施 参加600名以上で若年層10代20代の献血構成比35%以上にする

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血団体・企業の確保	献血未実施企業・団体	休眠団体、新規団体の献血実施50社
2	優良企業・団体の年複数回の献血実施	1稼働あたり85単位以上の企業・団体	15企業・団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	協力者数1,000人
2	はがきによる献血要請	成分献血・400mL献血可能者	協力者数15,000人
3	メール会員登録推進カード配布	全献血者	メール会員新規登録6,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時の400mL推進用資材作成	400mL献血対象者	1稼働当の400mL比率87%以上とする
2	はがきによる400mL献血依頼	前回400mL献血者で間隔があいている方	応諾者数10000人以上
3	献血企業・団体への400mL協力依頼	400mL比率が89%以下の協力団体	前年400mL比の低い団体を89%以上にする

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

三重県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	大学生・専門学生・短大生	2回 100名
2	大学、専門学校献血増回	大学生・専門学生・短大生	10校 配車20回×45人 900名
3	中部統一学生サマー献血キャンペーン	18～29歳の若者	10、20代献血者構成率30%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力・団体の確保	献血未実施の事業所	20社新規登録
2	休眠状態の事業所の開拓	5年以上献血から参加していない企業	20団体以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数500名以上
2	企業への年間回数の増加	事業所内職員	400ML献血間隔、年間採血量を考慮した献血日程

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	街頭献血(ショッピングセンター)推進	一般市民	1000人(年100回×10人)初回献血

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	成分献血登録者の募集	条件に合致する献血者	100人/月
2	電話による献血依頼(主に夜間)	成分登録者	300人/月
3	次回の予約依頼	成分献血にご協力いただいた献血者	10人/日

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

滋賀県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数1,000人以上
2	ふれあい体験学習	小・中学生	3回開催 参加500人
3	セミナー開催	短大・大学生	9回開催 参加700人
4	若年者献血キャンペーン	18～22歳の若者	参加500人以上 期間中の10、20代献血者 構成比50%以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規・休眠中献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規等登録10社
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	母体・ルーム周辺の小規模企業・事業所	動員協力団体5社
3	献血協力団体等の確保	献血協力団体及び献血推進団体	協力団体5社増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	5ヵ所
4	郵送によるメール会員募集	若年献血者	新規登録者200人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	献血団体・献血推進団体および献血者	全献血会場に設置
2	ハガキ及び封書による献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	献血団体の年間回数・実施時期等の精査	年2回以上実施の献血団体	400mL献血の採血感覚、年間採血量を考慮した献 血日程の策定
4	街頭献血での400mL献血の更なる推進	街頭会場での400mL献血可能者	街頭会場平均95%以上

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	近隣大学生への献血勧誘	母体の近隣大学生(立命・龍谷)	3人/日を目標に年間600人を確保する。
2	DM及び電話による献血依頼	母体・ルームの血小板成分献血者を含む全献 血者	3人/日を目標に年間1,000人を確保する。
3	次回の予約推進	母体・ルームの血小板成分献血者	2人/日を目標に年間700人を確保する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

京都府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ルームでの献血セミナー開催	小学生高学年とその保護者	8月 4回開催 参加100人以上 献血協力 40人
2	若年層対象の献血セミナー開催	JRC加盟中～高校生・看護学生	JRC加盟校 3回開催 参加150人 看護学校 7回開催 参加300人
3	18歳からの献血体験キャンペーン	府内18歳以上の高校3年生、専門学校生	期間中の参加者数 100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血協力企業の確保	献血会場周辺企業に対する献血協力の推進	27社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血依頼メールの送付	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数):不足時要請300人
2	情報提供メールの送付	複数回献血クラブ会員	1回/月 程度の情報提供
3	健康相談事業(健康教室)の実施	複数回献血クラブ会員	100人程度の参加
4	講演会の実施	複数回献血クラブ会員	1回実施
5	登録会キャンペーンを設けて新規登録者を募集する	一般献血者	新規登録者10人/回
6	「ワンモア献血カード」キャンペーン	献血ルームでの400mL、成分献血者	400mL献血者3,200人確保(実人数)、年間3回以上の成分献血者3,000人確保(実人数)

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血から6カ月間未献血の400mL献血者	応諾者(実献血者数) 1,800人
2	1稼動あたりの400mL献血数増加(福知山移動)	全稼動	1稼動35人以下の会場には配車しない
3	1稼動あたりの200mL献血数減少(福知山移動)	全稼動	200mL献血の1日上限採血数を2人とする

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回献血から9か月間未献血の400mL献血者約2000人(11月と3月の2回に分けて送付)	応諾率20%

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

大阪府赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがき・Eメールによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数2,000人以上
2	セミナー開催	高校生・短大・大学生	2回開催 参加60人
3	献血おもしろゼミナール開催	小学生	夏休み8回開催 参加1,800人
4	若年者献血キャンペーン	高校の卒業生・短大・大学生	参加5,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場(ルームも含む)周辺企業	150団体
2	緊急要請可能な待機型団体の確保	官公庁、献血推進団体	10団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者数)900人以上
2	はがきによる献血依頼	輸血用血液の在庫が不足時期に前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者数)8,000人以上
3	実施場所(企業・団体)の年間回数の増加	年1回実施場所(企業・団体)	30箇所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時献血推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記①、③に含まれる
3	キャンペーンの実施	400mL献血可能者	応諾者数10,000人以上
4	Eメールによる献血依頼	400mL献血可能者	上記①、③に含まれる

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	固定施設における献血者サービスの充実	全献血者	献血者数を現在より10%増加させる。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

兵庫県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	18歳の献血キャンペーン	県下の県立・私立高校在籍の内、3年生4.7万人	18歳の献血者数を4000人としたい(19年度3416人)
2	ともだち紹介カードキャンペーン	大学・専門学校献血時など	1500人
3	ハガキによる献血依頼	大学・専門学校献血時など	1500人
4	「献血ルームへ行こう!」キャンペーン	10.20代の献血者へ	2100人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規・休眠献血協力企業・団体の確保	新規や一時中止献血協力企業・団体(の掘り起こし)	33団体
2	ロゴマークの提供	献血協力団体	50団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールはがきによる献血要請	複数回献血クラブ会員	随時応諾率 各20%以上
2	メールによる献血案内	複数回献血クラブ会員	年間12回以上
3	献血会場にてチラシリーフレットの配布	献血可能者	10000人以上
4	複数回献血クラブ会員募集はがきの送付	400mL・成分献血可能者	20000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキ・封書による献血依頼	前回400mL献血者	応諾献血者を16000人
2	400mL献血のみの献血会場の実施	主に街頭献血会場	県下移動会場で100カ所
3	所内イントラによる200mL受入れの抑制	すべての会場	供給必要量を鑑みながら、不要な200mLを抑制し、400率を92.8%にする

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血ルームにおけるサービス	ルームにおける献血者	学生ボランティアとの連携によるハンドマッサージ等の献血者処遇
2	献血バス・ルームにおけるサービス	献血来場者	兵庫県栄養士会による栄養相談

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

奈良県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	高等学校、専門学校、短大、大学、団体	3回開催、参加100人
2	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者15,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施の企業・団体及び献血会場周辺企業等	24社新規登録
2	休眠事業所、団体の再開の働きかけ	休眠事業所、団体	12社登録
3	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体及び少人数の企業・団体	協力団体5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)3,500人以上
3	事業所、団体の年間回数の増加	現在、年1回の事業所、団体	12ヶ所

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材製作	全血献血希望者	全献血会場に設置
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	大学献血における400mL献血の推進	400mL献血可能者	県下大学、短大、専門学校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	予約制の推進	血小板成分献血者	予約率を確保本数の30%に引き上げる。
2	電話、はがきによる献血依頼	前回血小板成分献血者	予約率を確保本数の31%に引き上げる。
3	メール会員による献血依頼	前回血小板成分献血者	予約率を確保本数の32%に引き上げる。
4	イベント等の開催	献血希望者(センター・ルーム)	予約率を確保本数の33%に引き上げる。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

和歌山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	学生献血推進協議会主催キャンペーン	大学生・専門学校生・一般人	協力者500人以上を目指す。
2	若年層対象のセミナー開催	大学生・専門学校生	5回の開催を予定 参加者500人以上
3	ハガキによる献血要請	18歳～29歳の400mL献血可能者	協力者数4、500人以上を目指す。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の開拓	献血協力未実施企業	新規登録10社を目指す。
2	緊急要請可能な団体の確保	既献血団体による追加協力	動員・協力団体5社確保を目指す。
3	休眠企業・団体の開拓	過去5年以上献血未実施の企業・団体	再開拓5社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話・ハガキによる献血要請	前回の献血から一定期間未献血者	応諾者数1,200人以上
2	企業における年間協力回数の拡大	年間1回の献血協力事業所	10社の拡大を目指す
3	複数回会員へのメールでの献血要請	複数回献血クラブ会員	毎月1回以上の要請

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	400mL献血可能者(休眠献血者も含む)	上記複数回の対策に含まれる
2	高校献血での400mL献血の実施	卒業時の400mL献血可能な3年生	2校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	電話・ハガキによる協力依頼	前回より期間の空いている献血者	1人/日を目標に年間300人
2	成分献血協力依頼の啓発、推進	近隣事業所・団体	1人/週を目標に年間50人
3	全血献血者の成分献血への移行	当日来所の全血献血者	4人/週を目標に年間190人
4	イベント等の実施による啓発	既献血ルーム献血協力者	2人/週を目標に年間100人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

鳥取県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	研修、セミナーの開催	高校生・大学生	5回開催 参加150人
2	若年層献血キャンペーン	18歳から29歳の若者	期間中の10代20代の構成比32%以上
3	はがきによる献血依頼	18歳から29歳の成分献血、400mL献血	年間15,000人を目標。

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	緊急要請可能な企業の確保	固定施設周辺企業	10社増加
2	休眠企業団体の配車の方法等の拡大	規模縮小により献血実施できなくなった企業、団体	30社
3	事前推進の徹底	献血協力団体	鳥取・倉吉・米子市内の献血協力団体100社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メール、はがきによる献血要請・イベント案内	複数回献血クラブ会員。	応諾者数300人以上
2	街頭献血におけるはがきによる依頼。	前回採血からの一定期間未献血者	応諾者数600人以上
3	企業への年間回数の増加	年1回実施企業。	10企業の増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	不足型別推進用資材の掲示。	全血献血希望者	街頭献血会場
2	400mL献血推進チラシの作成、企業事前配布。	全血献血希望者	全血献血協力企業
3	はがきによる依頼。	400mL献血希望者	③複数回献血者確保対策に含まれる。

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	午前中の献血者確保	固定施設血小板献血者	午前中の平均受入数10人を13人まで増加する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

島根県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	夏休み小学生親子血液センター見学会	小学生	6回、200人
2	大学・高専の若年層献血セミナーの実施	大学生、高専生、その他若年層	2回、500人
3	高校での献血出前教室の実施	高校生	2回、150人
4	高校、専門学校、短大、大学での学内献血の実施	高校3年生、専門学校生、短大生、大学生	高校20校、専門学校・短大・大学各2回以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	協賛企業の募集	協力企業	10社新規登録
2	協賛団体の募集	学生献血推進サークル、ライオンズクラブ	5団体新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールクラブ会員の募集	未加入の献血経験者	300人
2	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)700人以上
3	ハガキによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
4	複数回献血クラブ感謝の集いの実施	複数回献血クラブ会員	1回(400人)

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	移動採血は400mL限定で実施	事業所、各種団体、高校、専門学校、短大、大学	配車台数400台

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

岡山県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	学生献血推進ボランティア組織への加盟校参加促進	大学、短大、専門学校の学生	新規参加2校の確保
2	運転免許センターへの移動採血	18歳～29歳の新規運転免許取得者等	1,600人
3	学生献血推進ボランティア組織の研修会開催	学生献血推進ボランティア	1回
4	大学・専門学校等血液センター見学体験研修	学生	8校、250人
5	夏休み小学生親子体験教室	小学生とその親	700人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規・休眠献血協力企業・団体の確保	献血未実施・休眠及び献血会場周辺の企業・団体等	5団体登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	10件
2	はがきによる献血要請	献血者	1000件
3	実施場所(企業・団体・街頭)の年間回数の増加	年1回の献血実施企業・団体・街頭	3会場
4	複数回献血クラブ会員の増加	献血者	2000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時の推進資材の設置	全血献血希望者	街頭献血会場に設置
2	実施場所(企業・団体)の実施時期の精査	年2回以上の協力企業・団体	400mL献血の献血間隔を考慮した献血目標の策定

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

広島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血セミナー実施	短大・大学生	2回実施 参加150名
2	大学(短大含む)・専門学校・高校献血の実施	大学生(短大生含む)、専門学校生、高校生	移動献血での献血者数:4,200名
3	高校卒業予定者へのリーフレット配布	高校生(卒業予定者)	26,000部配布
4	親子献血教室	小学校中・高学年	10回実施参加500名(新たに出張教室実施)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力団体の確保	献血未実施団体および献血会場周辺企業	新規献血団体10団体確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	400mL献血者・血小板献血者	要請者数:25,000人
2	メールによる献血要請	複数回クラブ会員	不足時にリアルタイムに要請

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血要請	移動献血における前回400mL献血者	要請者数2万人(上記③に含まれる。)

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

山口県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	セミナー開催	山口県学生献血推進協議会(短大・高専・大学生)	15回開催 参加者数 500名以上
2	はがき・電話による協力要請	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数20,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規協力企業・団体確保	未実施企業及び献血会場周辺企業、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、商工会連合会(青年部)	20
2	緊急時要請可能な待機型団体の確保	規模縮小等による献血実施できなくなった企業・団体	26
3	成分献血協力団体の拡大	既献血協力団体及び近隣企業、個人	30

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	複数回献血クラブ会員に対しメールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員(1,100名)	応諾者数(実協力者数)300名
	複数回献血クラブ「チーム35」情報パンフレット作成	献血者・事業所・行政機関	作成枚数:40,000枚
2	県・市町職員献血協力者名簿の活用	県・市町職員献血協力者名簿提出者に対しての協力要請	応諾者数(実協力者数)700名
3	はがき・電話による協力要請	前回採血から一定期間未献血者	年間 30,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血会場啓発資材の活用(広報用テープ・400mL必要本数たて看板・のぼり等)	献血会場(地域・街頭献血)	全献血会場に設置
2	はがき・電話による依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	実施場所(企業・団体)の年間回数実施時期の等の精査	年間2回実施会場から3回へ	400mL献血の採血間隔、年間採血量を考慮した献血日程の策定
4	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	5校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	DM・電話による献血依頼	既血小板成分献血者	4人/日を目標 年間:2,500人
2	近隣献血団体へ定期的な献血依頼	成分献血可能者	180団体で年間:3,400人
3	年間を通してのキャンペーン実施(マスメディアとタイアップしたイベント企画)	既血小板成分献血者	キャンペーン展開により18,40人 血小板成分献血者確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

徳島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	夏休み親子献血セミナー	小学校(4～6年生)と保護者	4回開催(参加者200名)
2	JRC献血セミナー	県下JRCメンバー	1回開催
3	学内献血パネル展	県内3大学	6回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺事業所	新規登録(5事業所)
2	休眠企業の掘り起こし	過去に実績のある企業	10事業所確保

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	複数回メールクラブ会員登録の増加事業	新規登録者	新規登録者500人以上
2	メールによる献血要請	複数回メールクラブ会員	応諾者数(実献血延協力数)1000人以上
3	ハガキによる献血要請	400mL・成分献血者	1000通/月発送、応諾率18%、2000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼(移動採血巡回場所)	前回実施市町村での400mL献血協力者	600通/月の発送、応諾率30% 献血者数2200人

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

香川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校生街頭献血キャンペーン	高校生	年2回 50名
2	施設見学	小中学生	年3回 150名
3	献血セミナー開催	大学・専門学校・高等学校	年5回 300名

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	保健所・市町との連携	献血会場周辺企業と自治会等	地域献血での1稼働50人以上
2	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)
3	休眠企業の掘り起こし	数年間、献血未実施企業・団体	協力団体50社(団体)

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)200人以上
2	はがき・電話による依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがき・電話・メールによる依頼	400mL献血可能者	移動採血車の献血実施場所における前回献血者

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	平日の献血者増	全献血者	2人/日増を目標とする。
2	次回の予約推進	成分献血者	6人/日増を目標とする。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

愛媛県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	大学学内献血時に各サークルに協力依頼	大学生	献血者協力者の10%増加
2	大学・専門学校の学内献血実施回数の増加	在校生	年間大学3回、専門学校2回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	男性職員が大半を占める事業所は年3回の献血を実施する	男性の多い事業所	40事業所

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	チラシ等により採血現場で職員が直接勧誘しクラブ会員の登録推進	全献血者	現在会員数1,512人+1,000人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	200mLについては必要本数のみルームで確保し、移動採血車では全て400mL	全献血者	現行どおり
2	高校での400mL献血実施	高校生	私立校1校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	緊急血液不足時にラジオ生番組で放送依頼する。	県内全域	

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

高知県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	若年者献血キャンペーン	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数400人以上
2	大学・専門学校献血の強化	大学生・専門学校生	協力者数3000人以上
3	セミナー開催	小学生	参加者100名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血協力企業・団体の見直し	献血未実施および献血会場周辺企業	新規も含め10社登録
2	成分献血協力団体の拡大	献血ルーム周辺の少人数の事業所	3事業所増加

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回メールクラブ会員	応諾率33.0%
2	メールクラブ会員募集ファイルの新規作成	400mL・成分献血協力者	登録者500名増加
3	献血実施場所の年間回数の増加	大学・短期大学	年間200名増加

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の作成	全血献血希望者	全献血会場に持参
2	はがきによる依頼	400mL献血可能者	
3	400mL献血推進チラシの作成	全血献血希望者	全献血会場に持参

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の予約推進	血小板成分献血者	10人/月を目標に120人を確保する。
2	電話による献血依頼	血小板成分献血者	〃
3	午前中の献血者確保	全献血者	午前中の平均受付数10人を15人までに増加させる。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

福岡県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血応援	大学生	平成20年度並み
2	学生献血推進協議会加盟促進	大学生等	数校増
3	若年者献血セミナー	高校生	数校増

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	新規	20~30
2	献血協賛企業活動推進	新規及び既献血団体	5

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼(移動採血)	前回献血会場での献血協力者(過去1年間で検 索)	要請者延数1000人以上(冬季における献血不足対策)
2	メールによる献血要請(献血ルーム)	複数回献血クラブ会員(血小板)	要請者延数2,000人以上
3	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(血小板)	要請者延数30,000人以上
4	はがきによる献血依頼(献血ルーム)	前回採血から一定期間未献血者(400mL)	要請者延数1,000人以上(冬季不足対策)
5	講演会の開催	複数回献血クラブ会員及び新規登録者	年1回

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規400mL献血者確保	新規	約10%増

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

佐賀県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校生卒業献血	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	5回以上、400mL・成分献血参加者280人
2	大学・短大学内献血	18歳以上で400mL献血・成分献血可能者。	4校2回以上、参加者1,200
3	献血教室・セミナー開催	高校・大(短)学・看護学校生	7校・参加者1,100人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保。	献血未実施及び献血会場周辺企業。	新規登録30団体。
2	不足時期に協力可能な待機型の団体確保。	特に冬場の協力企業・団体。	30団体。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血のお知らせ。	複数回献血クラブ会員。	応諾者数30%
2	ハガキによる登録依頼。	年2回以上の献血者。	登録者数500人以上
3	パンフレット配布による登録依頼。	献血者	登録者数500人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる依頼。	400mL献血可能者	年2回及び不足時期

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	市町成分献血の日	各市町毎に平日の成分献血者確保(血小板献血者)。	平日の確保年間200人
2	午前中の献血者確保(おはよう献血カードの適用)。	午前中の血小板確保者及び血漿献血・400mL献血者。	午前中の献血者を20人から30人と安定確保する。

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

長崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血者確保キャンペーンの実施	一般及び若年層	年間5回以上のキャンペーンを実施する
2	学生ボランティア研修会の実施	短大、大学生	センター主催で年1回、九州ブロック主催で年3回実施する
3	血液センター見学会の実施	PTA、高等学校	年間2回以上実施、合計参加100人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規事業所及び掘起し団体の開拓	献血未実施及び献血会場周辺事業所、数年献血を実施していない事業所	月間5社以上の開拓を目標とする

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールとはがきによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数100人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数3,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	はがきによる依頼	400mL献血経験者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
2	受付時推進資材の作製	全血献血希望者	移動採血会場に設置
3	事業所等における400mL限定献血の実施	400mL献血可能者	400mL献血率を90%以上とする
4	高校献血における400mL献血受入れ	400mL献血可能者	6校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ライオンズクラブ主催献血	一般及びライオンズクラブ会員、関係者	年間3回以上実施

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

熊本県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	成人式での献血推進パンフレットの配布	県内新成人(成人式参加者)	14,000人
2	高校卒業生に献血推進用パンフレット配布	県内高等学校卒業生	20,000人
3	学生献血登録者募集	県内大学生	500人
4	血Cオープンキャンパス	県内大学生・高校生	大学生主催による高校生への献血セミナー実施
5	県内全大学及び専門学校への献血推進情報誌の配布	県内大学生・専門学校生	血C情報誌(年4回)及び各キャンペーンの周知

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	広報資材(広報誌)の活用	献血協力企業及び団体	全献血会場及び団体へ年4回の配布
2	新規事業所及び団体の実施	新規事業所及び団体	年間10社(10団体)程度の確保
3	緊急要請可能な事業所の確保	通常時に1稼働60名以上見込める事業所	20社程度
4	ロゴマークの配布	献血協力企業及び団体	提供事業所を80社にする。

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
2	ハガキによる献血依頼	献血登録者、依頼応諾者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
3	複数回献血推進用パンフレット等作製	献血者	通年
4	複数回献血キャンペーン	400mL・成分献血協力者	3,000人以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材に作製(献血へ行こう)	献血者及び献血団体等	全献血会場に設置
2	はがきによる献血依頼	400mL献血可能者	(上記③複数回献血者確保対策に含まれる)
3	高校献血での400mL献血推進	18歳、体重50kg以上の高校生	10校実施予定

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	200mL献血の制限	固定施設及び移動採血車	需要に応じた採血、月間85名程度の採血

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

大分県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	学内献血の推進(献血説明会の実施)	大学・短大・専門学校生(学校個別)	5校・5回(300人)
2	20歳の初回献血キャンペーン(2ヶ月間)	20歳の若者	200人
3	学推協加盟校学生対象献血セミナー	大学・短大・専門学校生	3回(150人)
4	高校献血の推進(説明会及び献血実施)	高校生・教職員	10校(県立・私立)

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	10社新規登録
2	県当局からの献血協力要請	進出企業	30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数150人
2	ハガキによる献血要請	①献血登録者 ②依頼対象者	応諾者数600人
3	企業・団体の年間協力回数の増加	プラス年1回	20社・団体

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	①献血登録者 ②依頼対象者	30,000人
2	献血処遇品の改善(四半期毎)	全400mL献血者	31,650人
3	学内400mL献血キャンペーン	大学・短大・専門学校生	2,970人
4	高校献血の推進(400mL献血対象)	400mL献血可能者及び教職員	10校

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	次回の予約推進	血小板成分献血者	午前中の献血者1日20人確保
2	キャンペーンの実施	新規及び既成分献血者	
3	成分献血者の送迎	大学・専門学校等	男性若年層献血者の引き上げ 全体比 15.8%⇒20%
4	各種キャンペーン等の周知	新規及び既成分献血者	

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

宮崎県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	ハガキによる献血依頼	18～29歳の400mL可能者	協力者1,000人以上
2	若年層献血キャンペーン(サマー献血キャンペーン)	18～29歳の若者	協力者数800人、期間中の10,20代献血者構成比30%。
3	高校・大学・専門学校における学内献血の推進	18～22歳の若者	学内献血実施を10箇所増加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	新規開拓企業・団体36社
2	成分献血協力団体の拡大	既献血団体および少人数企業・団体	10社以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)100人
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,000人
3	複数回新規会員募集	400mL・成分献血者	新規登録者500人

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	受付時推進用資材の製作	全献血者	全献血会場に設置
2	ハガキによる献血依頼	400mL可能者	上記③複数回献血者確保対策に含まれる
3	実施場所(企業・団体の年間回数、実施期間等の精査)	年3回以上実施場所(企業・団体)	400mL献血の採血間隔、年間採血日程の決定

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

鹿児島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	献血おもしろゼミナール開催	小学生及び保護者	1回(4日間)開催 参加者350人目標
2	学生献血推進セミナー開催	短大、大学、専門学校	2回開催 参加者100人以上
3	はがきによる献血要請	18歳～29歳の400mL献血可能者	協力者25,000人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	新規献血協力企業、団体の確保	鹿児島市中心に行う	新規に15団体
2	献血協賛企業、団体への推進活動	現状団体に普及	30社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)300人以上
2	はがきによる献血要請	献血間隔が一定期間あいた献血者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
3	電話による献血要請	献血間隔が一定期間あいた献血者	応諾者数(実協力者数)1,000人以上
4	実施場所の年間回数の増加	年1回実施の企業、団体	応諾者数(企業・団体)50カ所以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	400mL献血推進パンフレット作成	400mL献血推進対象者	400mL献血推進対象者
2	献血団体育成講習会実施	各献血団体	各献血団体
3	電話による献血依頼	400mL献血可能者	血液不足時の対応
4	学内献血の強化	大学、専門学校	実施回数を増やし、男性中心に依頼

⑤その他の具体的対策(①～④以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	1稼働あたりの献血団体依頼	1稼働30人未満の配車	1稼働 400mL40人以上の献血者確保
2	固定献血会場(献血バス)への献血者送迎	献血会場周辺事業所	1稼働 400mL40人以上の献血者確保

平成21年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年献血者確保対策

沖縄県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	高校献血の推進	県内各高等学校	25校以上
2	学生献血推進協議会の活性化	各種学校、大学	在籍5校以上
3	献血教室の開催	小・中・高校・各種学校	献血教室20回、受講1,500人以上
4	専門学校献血の推進	県内各専門学校	20校以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	休眠協力企業、団体の復活	過去3年以上実施が途絶えている企業、団体	10団体以上
2	新規協力企業、団体の開拓	未実施の企業、団体	10団体以上
3	複数回献血協力企業、団体の開拓	年1回実施の企業、団体	15団体以上
4	街頭献血実施場所の開拓	集客力のある商業施設等	5箇所以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	メールによる献血依頼	複数回献血クラブ会員	応諾者数200名以上
2	ハガキによる献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数3,600名以上
3	電話による献血依頼	献血間隔基準をクリアしている既献血者	応諾者数2,200名以上
4	処遇品の見直し	各種依頼応諾による献血者	処遇品6,000個以上

④400mL献血率増加対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成21年度目標(数値)
1	企業、団体推進時のパンフレット製作	全企業、団体	献血推進時に持参
2	企業、団体の年間実施回数、時期の精査	年3回実施の企業、団体等	採血間隔、年間採血量を考慮した日程の策定
3	建築工事現場での実施	各建築工事現場	25箇所